8つのアート1つのハート

NAU
Nihon University College of Art
Art

日本大学藝術学部

1つしかダメですか？

美術まで。

Illustrations by Kurumi Agari



愛犬Bon

Message

学部長からのメッセージ

日本大学芸術学部長
日本大学大学院芸術学研究科長
木村政司

アートとエンタテイメントの未来に質の高い芸術の学びで世界を変える

2020年は新型コロナウィルス感染症の世界的猛威が社会のあり方を変え、多くの人々が苦しみ、2021年、2022年と2年以上に渡って感染症のパンデミックに耐える事態となりました。この長く続くコロナ禍でも、芸術学部は学びを止めることはありません。DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用することでこの窮地を乗り越え、芸術の効果的な学びを推進しました。これに加え、日本大学では前代未聞の不祥事が起こりましたが、芸術学部は「自主創造」の真の精神を深化させ、自由で伸び伸びした知的好奇心あふれる人材を育成する本来の学びを、さらに進化させていくことをお約束します。

2021年、芸術学部は創設100周年を迎えました。芸術学部が経験した関東大震災、太平洋戦争、校舎の全焼火災、大学紛争という波乱に満ちた100年の歴史を振り返ると、血の滲むような先輩たちの努力と偉業によって、その苦難の道を乗り越えてきたことがわかります。芸術学部は国内初の芸術総合学部として日本のアートとエンタテイメントの時代を果敢に切り開いた「創造の聖地」です。私たちは、先人たちが築いたこの聖地によりかかることなくアートとエンタテイメントのイノベーションを引き起こし続けるための質の高い教育を提供し、世界を変える人材を育成します。

芸術学部は、これまで「8つのアート1つのハート」というキャッチフレーズを掲げてきました。8つのアートは創造の多様性を意味し、1つのハートは生命という共通性を表しています。これからの時代はサステナビリティを目指す時代やメタバースの時代と言われています。どのような時代でもアートとエンタテイメントは新しい可能性を創造していくでしょう。

芸術学部が日藝と呼ばれ続けてきた時代から、百年経った今、日藝は百藝へと変化を迎えました。

特化した知識や技術を大学で身につけ、目的の職能にたどり着く道はもちろんあります。しかし、これからの未来は多様な価値を受容し、知識や技術を横断的に連携させる能力によって、領域を超えた思考力と創造力をもった人がセンスを発揮できる時代です。アートとエンタテイメントの未来では、豊かな創造力と美意識ある感性を自ら掴みとっていかなければ、常に襲いかかる壁をブレイクスルーできません。日藝は、日本大学建学の精神「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」の中の「自ら～」の部分が最も重要であると考えます。私たちは、自らいかなる壁も突破していくレジリエンス（しなやかさ）を身につけるための創造を日々開発し、アートとエンタテイメントの未来に質の高い芸術の学びで世界を変えていきます。

日本大学教育憲章

日本大学マインド

- 日本の特質を理解し伝える力
- 多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力
- 社会に貢献する姿勢

教育理念 自主創造

自ら学ぶ
- 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
- 世界の現状を理解し、説明する力

自ら考える
- 論理的・批判的思考力
- 問題発見・解決力

自ら道をひらく
- 挑戦力
- コミュニケーション力
- リーダーシップ・協働力
- 省察力

16学部から成る日本最大の総合大学

日本大学の前身「日本法律学校」は、1889年、日本文化の高揚と世界視野の拡大という理念のもとに創立されました。以来130年を超えて、日本大学と名を変えながら、建学時からの理念のもとで教育・研究活動を続け、日本最大の総合大学となりました。現在、学問の全領域にわたり16学部87学科、さらに、大学院、短期大学部、通信教育部を擁し、121万人以上の卒業生を世の中に輩出しています。

「日藝で化ける」パワーとセンスがレジリエンスをもつことにつながる

日藝は大正10年（1921年）、松原寛先生らが日本大学法文学部に創設した美学科からはじまります。以来、芸術の総合学部としてその伝統を築き上げてきました。これまでに輩出した卒業生は約57,000人。現在、8学科と大学院には約4,000人の個性豊かな学生たちが、領域を超えた境界のないクリエイティブな世界を探究しています。卒業生で構成されている校友会は、札幌から鹿児島、台湾、中国まで25の都市にあり、後輩のための日藝ネットワークづくりを盛んに行なっています。日藝が他の芸術系大学と違うのは、なんといっても総合大学の一学部だということ。学術分野全てが揃ったパワフルな大学です。創設100周年を機に、日藝はこのパワフルなネットワークを生かし、社会や地域との連携で、サステナブルな芸術総合教育を推進していきます。

インターネットやSNSを使いこなすZ世代は、情報活用能力が高い世代と言われています。日藝はこの勢いを掴み、未来創造に向けてアートとエンタテイメントを、もっと刺激的な世界にシフトチェンジしていくことをヴィジョンにしています。新しい時代を生き抜く力、領域を超えた総知力を世界は求めています。未来が向こうから来ることはありません。自ら掴みにいくものです。自らの未来のために「自主創造」の精神を身につけることで、「日藝で化ける」パワーとセンスがレジリエンスをもつことにつながります。日藝は新たな100年に向けて最強の日藝に化けていきます。Art Transformation since 2021.



ニチゲイで化けました。

Message

グラフィックデザイナー 中村 至男氏

第16回日藝賞受賞
日藝アンバサダー

このたびは、多様なジャンルが響き合う日藝で、グラフィックデザインに光を当てて頂き、本当にありがとうございました。
もう30数年前、まだ考えも浅く空っぽの僕は、本来そんなに頑張れる人間ではありませんでした。しかし入学するや、まるで映画アベンジャーズのように、次々と現れる強い同級生たちに助けられ、しだいに感化されていきました。クラスには秋山具義くんはじめ実力派が揃い、写真学科の三橋純くん、浅川英郎くんなど。同世代のリアルな才能を目の当たりに、デザインや将来へ興味を馳せました。
池袋の街を最新ポスターを見てまわり、公募の落選に落ち込んではミスタードーナツに入りびたる。そんな無計画で豊かな時間を過ごせたのも、江古田を軸に、共に切磋する仲間たちがいたおかげと、今こそわかります。
大きく世界が変わる時代に、くしくも我々は表現に関わろうとしています。この果てしない仕事に出会えた日藝、火をつけてくれた同級生、先生方に、改めて感謝申し上げます。そして、日藝生の皆さんが、ここで一生ものの時間を過ごしてくれることを願っております。



「単位展」
21_21 DESIGN SIGHT


「中村至男展2018」
リクルートCreation Gallery G8



絵本「どっとこどうぶつえん」
福音館書店

PROFILE

中村 至男

川崎市生まれ。1990年美術学科卒業、Sony Music Entertainmentを経て1997年よりフリーランス。グラフィックデザインを中心に、広告、絵本、CI、デジタルコンテンツ、映像、イラストレーション、ブックデザインなどで活動。2019年、台北 松山文創園區にて初の海外個展「中村至男自選展」を開催。ほか国内外で展覧会多数。著書に、絵本『どっとこどうぶつえん』『はかせのふしぎなプール』『たなのうえひこうじょう』『ゆきだゆきだ』『サンタのコ』『7:14』、『勝手に広告』(佐藤雅彦氏と共著)、『明和電機の広告デザイン』(土佐信道氏と共著)など。主な仕事に、21_21 DESIGN SIGHT「単位展」、アートユニット『明和電機』のグラフィックデザイン、銀座メゾンエルメスウインドウディスプレイ、日本科学未来館、雑誌『広告批評』(1999年)、佐藤雅彦氏とのプロジェクトに、PlayStationゲーム『I.Q』、NHKみんなのうた『テトペッテンソン』など。受賞に、毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、東京ADC賞、東京TDC賞、最も美しいドイツの本2019、ニューヨークADC銀賞、ボローニャ・ラガッツィ賞優秀賞、など。

詳しくはWEBをご覧ください

日藝賞 NICHIGEI AWARD FOR EXCELLENCE

各界に多彩な人材を輩出していることで知られる日藝。特にメディアやクリエイティブの世界には出身者が多く、仕事を介して同級生や先輩・後輩と偶然に出会うケースも多いようです。そんな事実に着目し、校友とのつながりを深めるために創設されたのが「日藝賞」。全ての日藝出身者を対象にその年に最も活躍した人物を独自に表彰することで、出身者への敬意を表すとともに、在学生への励みとしています。まだ形になっていない表現への衝動を、よりよいカタチで表現してほしい。そのためのフックになれば…。そんな「遊び心」が現れた日藝ならではの賞なのです。

日藝賞歴代受賞者


日藝賞 第1回 三谷 幸喜 脚本家


日藝賞 第1回 佐藤 隆太 俳優


日藝賞 第2回 大石 芳野 ドキュメンタリー写真家


日藝賞 第2回 爆笑問題 太田光・田中裕二／タレント


日藝賞 第3回 宮藤 官九郎 脚本家


日藝賞 第3回 真田 広之 俳優


日藝賞 第4回 市川 團十郎 歌舞伎俳優


日藝賞 第4回 宮嶋 茂樹 報道カメラマン


日藝賞 第5回 林 真理子 作家


日藝賞 第5回 青山 剛昌 漫画家


日藝賞 第6回 松井 龍哉 ロボットデザイナー


日藝賞 第6回 船越 英一郎 俳優


日藝賞 第7回 よしもとばなな 作家


日藝賞 第7回 森田 公一 作曲家


日藝賞 第8回 松崎 しげる 歌手


日藝賞 第8回 坂田 栄一郎 写真家


日藝賞 第9回 荒井 良二 絵本作家


日藝賞 第9回 中園 ミホ 脚本家


日藝賞 第10回 中村 獅童 俳優


日藝賞 第10回 池松 壮亮 俳優


日藝賞 第11回 三宅 由佳莉 海上自衛隊ボーカリスト


日藝賞 第11回 小山 薫堂 放送作家


日藝賞 第12回 片渕 須直 映画監督


日藝賞 第13回 小野 大輔 声優


日藝賞 第14回 本郷 奏多 俳優

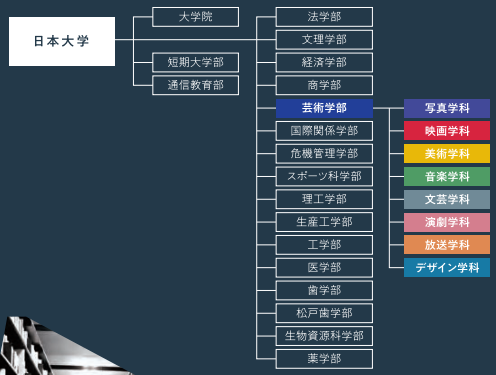

日藝賞 第15回 黒島 結菜 俳優

「ニチゲイで化ける」ために、大切なのは
ひた向きに芸術に向き合う姿勢と自ら夢をつかもうとする強い気持ちです。
日藝には、その想いに応える多様で充実したカリキュラムがあります。
そして、学生一人ひとりの挑戦を全力でサポートする頼もしい教員がいます。
この場所には、「化けるための学び」が確かにあります。

総合大学という強み

「日大」と「日藝」という二つのアイデンティティ。

日藝の強みの一つは、その歴史が日本大学法文学部に美学科として始まったこと。すなわち、日本大学という国内最大規模の総合大学の一学部であるということです。8つの学科を備えた芸術総合学部としての独自のアイデンティティを保ちつつ、他学部・学科の学問的成果を取り入れた新しいプログラムを導入するなど他の芸術系大学にはない教育システムで、芸術の発展に寄与する人材をこれまで多く輩出してきました。これからも芸術分野、そしてそれ以外の分野にも貢献するための教育を続けていきます。







日藝のカリキュラム

芸術と教養を幅広く学び、「独自の表現」を獲得していく。

日藝のカリキュラムは、全学共通教育科目、Ⅰ~Ⅲ群の学びと教職に関する科目で構成されています。全学共通教育科目は大学生としての基本的な学びの態度と技能を習得することを目的とした全学共通で実施する初年次教育科目です。Ⅰ群は「芸術教養科目」「外国語科目」「保健体育科目」から構成されており、芸術創造教育及び芸術総合教育のさらなる充実のために、芸術・文化の基礎知識を現代の教養として組み込んでいます。Ⅱ群は「学科別授業科目」と「共通専門教育科目」から構成されており、「学科別授業科目」では学科ごとの専門科目を学び、「共通専門教育科目」では、芸術プロジェクトをベースにした実践型・参加型の学習形態で思考力や実践力など様々なスキルを身につけます。また、Ⅲ群の「資格取得科目」は学芸員や司書教諭、司書といった教員免許状以外の資格を取得するための科目が開講されています。

- 全学共通教育科目
  - Ⅰ群
    - 芸術教養科目
    - 外国語科目
    - 保健体育科目
  - Ⅱ群
    - 学科別授業科目（卒業論文・制作含む）
    - 共通専門教育科目
  - Ⅲ群
    - 学芸員課程科目
    - 司書教諭課程科目
    - 司書課程科目
- 教職に関する科目

（注）第Ⅰ群美術学科及び文芸学科に属する教職教科部門・第Ⅲ群学芸員課程科目・司書教諭課程科目・司書課程科目及び教職に関する単位は卒業単位に含まれません。







大学院

70年の歴史を持つ芸術系総合大学院である芸術学研究科は、2019年4月に江古田校舎に通年化し、一つの校舎で学部4年、大学院博士前期課程2年、大学院博士後期課程3年の連続9年の一貫教育が可能となりました。博士前期課程では、専門性の高い5つの専攻で、深化した芸術の理論と歴史の研究を通して想像力と国際発信力を養い、併せて領域を超えた応用領域での複合的な芸術の創作と研究を探求することで、高度な知識と経験を研鑽します。1951年に文芸学専攻を設立し、1993年に映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の4専攻を増設し、多くの研究者、表現者を輩出しています。1995年に開設された博士後期課程芸術専攻では、これまで129名（2021年度末まで）の博士を輩出し、様々なフィールドで自立した研究と表現を行い、社会貢献を果たしています。未来の芸術開拓者となる人材の育成を目標としています。

大学院芸術学研究科

博士前期課程（5専攻）

文芸学専攻
LITERARY ARTS

現代文学を研究・創作の両面から考え、隣接ジャンルとの関係で幅広くとらえて文学の未来を探らせる。文学のみならず広義の文化研究の領域でも新研究を求めていく。そのためのあらゆる試みを可能にして、文壇・論壇・学界の新しい担い手を養成する。

映像芸術専攻
IMAGE ARTS

今日の情報環境や芸術の中では、映像作品や映像メディアは、様々な領域の中を横断的、かつ複合的にその役割を果たしている。また一方では、従来と同じように写真や映画や放送メディアは独立して、確固たる領域の中で機能している。映像芸術専攻では、その両面に即した教授陣を配し、カリキュラムを構築し、斬新な切り口で取り組む専門的な研究者と、新しい表現に意欲的に取り組み活発に創作活動に励む表現者の養成、そして新たな創造的研究領域の形成を図る。

造形芸術専攻
FINE ART AND DESIGN

デザイン、美術、美学美術史の分野における専門家を養成する。創作研究、作品分析研究、歴史研究を多角的に追求し、平面、立体、映像等表現のより豊かな感性の向上に合わせて、古典的及び現代的手法・技法を習得する。芸術の根源的な営為への想像力を馳せる力を養う一方で、文献学の基礎的方法も学ぶ。国際的な視野を持ち、社会との連携も視野に入れつつ、IT時代に即応した先端的表現領域や、造形関連分野境界領域での表現の独創性も追求する。

音楽芸術専攻
MUSICAL ARTS

音楽は、芸術文化の中で重要な部分を形成するばかりでなく、社会がますます複雑化し、多様化するにつれて、演劇、舞踊、映画、放送などといった諸分野との結びつきも、さらに密接になってきている。文化の国際化にともなう、まったく新しい形の活動も、めざましい。現実を見据え、いっそう高度な演奏、創作、研究を実践し、あるいは教育に当たることのできる人材を養成する。

舞台芸術専攻
PERFORMING ARTS

演劇の実践教育及びその芸術表現を基盤に、戯曲、演出、舞台美術の空間表現と、演技、舞踊など身体表現の教育研究を主眼とする。殊に、映像メディアを活用した身体表現や創作実験の場の提供による表現など創造的研究を行う。従来の西洋演劇を中心にした学問体系のみならず日本の伝統芸能、民俗芸術等を基盤として、これらの歴史研究、調査研究を実施し、高度な専門知識と実践的能力を有する人材を養成する。

博士後期課程（1専攻）

芸術専攻
THE ARTS

自らの専門分野をより深く研究することを目的としつつ、異なった分野・領域からでも自らの研究に必要な研鑽を可能にし、新たな表現と理論の開発にも有効に機能するよう多様な教授陣を配している。高度な表現研究能力と豊かな学識を持ち、自立した研究活動と高度な専門的活動に従事する人材を養成する。

〒176-8525 東京都練馬区旭丘2-42-1　TEL.03-5995-8200　詳しくはWEBをご覧ください。
https://www.art.nihon-u.ac.jp/　日藝　検索

日藝

1921－創設100周年－2021

Nihon University College of Art

2021年、日本大学芸術学部は創設100周年を迎えました。

日藝の歴史は1921年松原寛先生によって日本大学法文学部に美学科が誕生したことから始まりました。

創設以来、国内初の芸術総合学部としてその伝統を築き、多彩な人材を輩出し続け創設100周年を迎えた日藝。

自ら何かを成し遂げようという意志と大いなる野心を持って努力する「化ける」人材を見出し育成し開花させる場所として、

日藝は次の新たな100年のスタートを切りました。

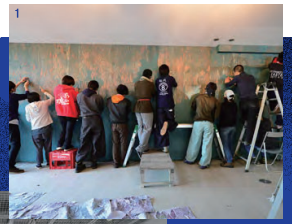
College of Art

Nihon University

日本大学芸術学部 創設100周年記念 産官学連携プロジェクト

日藝 1921－創設100周年－2021 Nihon University College of Art

創設100周年を機に芸術学部では次の100年に向けた新たなアクションとして「日藝ならではの産官学連携プロジェクト」をスタートさせています。芸術総合学部だからこそできる課題発見と解決への取り組みは、既存のカリキュラムにない自主創造教育実践の「場」を創出しています。





新潟県十日町市

世界最大級の国際芸術祭である「大地の芸術祭」に参加

2006年からNAP（日藝アートプロジェクト事業）として活動を開始しました。古民家のいたるところを彫刻刀で彫り現代アート作品として作品化した、宿泊可能の「脱皮する家」や、2014年に閉校となった奴奈川小学校の校舎を活用し、2015年に地域の価値を実践的に学ぶ学校として開校された「奴奈川キャンパス」における展示作品を制作しています。1

西武鉄道株式会社

江古田のまちをアートの力で彩る

江古田のまち全体をキャンバスに見立て、音楽やアート、カルチャーなど自由な発想・表現で彩り、人と人、人とまちをつないでいくことを目的とした江古田キャンバスプロジェクトに参加しています。2019年には江古田駅に「駅ピアノ」を設置、駅全体をラッピングする「駅デザイン」を行っています。2021年にポートレートを撮影し、江古田のまちの魅力を発信する「江古田ポートレート企画」を実施しました。2





千葉県富里市

スイカやニンジン、富里市の魅力をもっと知ってもらいたい

「富里市PRポスター」や地域商品券「とみさと元気アップ」のデザイン、図書館活性化企画「読書駅伝帯リレー」の企画・デザインなどで富里市の魅力発信・知名度向上に貢献しています。富里市の名産品であるスイカやニンジンを使ったPRポスターはクスッと笑えてかわいいデザインで好評を博しました。3

株式会社ニッポン放送

大学×ラジオ

ニッポン放送の番組等において共同企画によるスペシャル番組制作やタイムテーブルデザインリニューアルに協力しています。2021年はパーソナリティに落語家の立川志らくさん、女優の黒島結菜さんを迎え、オールナイトニッポン×日藝100周年記念番組を放送し、多くの学生が出演やジングルの制作等に参加しました。4





石川県小松市

高校生に芸術の楽しさを伝えたい

小松市立高校と合同授業を行っています。「カッコいいスマホ撮影と映える高校生活の撮り方ワークショップ」、「小松ならではの石と九谷焼から生み出すアースミュージックワークショップ」など高校生にアートを身近に感じてもらえる内容で、芸術の楽しさを伝えます。

株式会社きらぼし銀行

銀行と大学のコラボレーション

きらぼし銀行「前給」プロモーション協力を行っています。きらぼしテック株式会社のスマートフォン向けアプリケーションの開発プロジェクトにおいて、アプリのネーミングとロゴを制作。きらぼし銀行知名度向上のためのバンパー広告の企画・制作など幅広い活動を行っています。

他にも
東京都練馬区
東京都板橋区
広島県安芸高田市
福井県勝山市
角川文化振興財団　等で
連携プロジェクトを実施しています。

8つのアート1つのハート

NU Art

日本大学藝術学部

日藝 1921–創設100周年–2021 Nihon University College of Art

写真で見る写真学科 Photo Gallery


学生選抜作品展


サイエンスフォト(ミルクタラウン撮影)


写真技術I


卒展(日藝の卒博)


写真編集


日藝祭


写真基礎演習II


写真基礎演習I

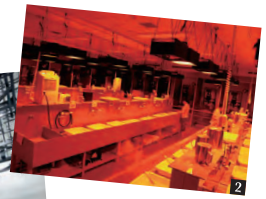

写真基礎演習III


日藝祭での写真展示


広告写真

主な施設 Facility


1


2


3


4


5

1 大スタジオ
2 大暗室
3 写真ギャラリー
4 機材センター
5 デジタルフォトラボ

写真学科HPへ
教員スタッフ・授業紹介ほか

日本大学藝術学部

写真学科

• NU ART •

• 2023 •



PHOTOGRAPHY

写真学科

光と影が紡ぐ世界の探求

PHOTOGRAPHY

時の流れの中で起こる出来事を記録する。心や頭の中にあるイメージを被写体という実体を借りて発信する。写真は記録や伝達、あるいは芸術表現の手段としてだけでなく、多様化するデジタルコンテンツの分野においても重要な役割を担っています。写真学科では、ただ単に写真技術を習得するだけでなく、幅広い芸術的教養と知識を身につけた写真家やクリエイターの育成をめざし、時代のニーズに対応した広範囲の教育を行っています。

学びのポイント Keyword

POINT 1 写真を学ぶ3本の柱

カリキュラムは「表現技術を学ぶ実習」「制作のための技術理論」「表現や研究を行うための表現理論」という3本の柱で構成しています。さまざまな角度から写真と向き合い、単に技術を習得するだけではなく、その本質を追求します。写真学科は、伝統に基づきながらも常に最新の状況・情報に目を配り、現代における写真の可能性を見据え、幅広い芸術的教養と知識を身につけた写真家やクリエイター、写真のプロフェッショナルの育成をめざしています。

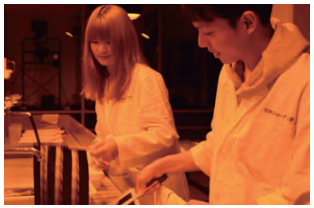
POINT 2 学外への作品公開

約10万点にも及ぶ卒業制作をはじめ、歴史的に貴重な資料や写真作品などを、芸術資料館の協力のもと積極的に収集しています。コレクションは、学内での展覧会で紹介するだけでなく、美術館への貸し出しなどを通して、一般の方々にも広く公開しています。学生の制作発表の場としては学内選抜者による外部ギャラリーでの作品展なども実施しています。

POINT 3 多彩な授業

写真界のフロントで活躍しているさまざまな分野の写真家や研究者などを写真学科講師として招き、多彩な授業を展開しています。最先端のデジタル技術から銀塩、古典技法まで幅広い写真に対応しています。またデザイン学科教員による集中講義を実施することで、写真を活用するための幅広い知識・技術も身につけられるような体制を整えています。その他、外部アイドルをモデルとして招いての撮影なども実施し、学外とのコラボレーションも積極的に行っています。

授業紹介 Class



[写真技術]

カリキュラムのメインとなる写真技術はデジタルとなりましたが、写真学科では必ず全学生が銀塩写真の技術と表現を学びます。また、鶏卵紙や塩化銀紙、サイアノタイプなど19世紀に活用された古典技法を学べる科目も設定しています。デジタルによる写真だけではない多様な写真表現を学び、制作することができます。



[写真特別講座]

オムニバス形式の授業では、毎週異なる分野のプロフェッショナルによる講義を行います。スポーツや鉄道、水中写真といった各分野の写真家はもちろん、キュレーターや編集者の方を招き、写真に関わるさまざまな現場の話を聞き、自分の将来を考えることができます。



[動画編集]

デジタル一眼レフを使用した動画編集を学びます。卒業後、写真だけではなく動画の撮影や編集を求められることも多いという現状を踏まえ、写真学科に所属しながら他映像分野の表現も身につけることができます。



[広告写真／ポートレート]

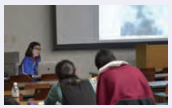
大スタジオと5つの小スタジオを使い、静物写真のライティング技術や表現方法、ポートレート撮影をする際の技術やコミュニケーションについて実践的に学びます。プロ仕様の機材を使った実習です。



[インターンシップ]

2004年より単位を認定する科目としてインターンシップを開講しています。制作会社・美術館・ギャラリー・写真家事務所・ブライダル・テーマパークなど、写真に関する仕事先へ出向き、夏期休暇中に実務体験をします。大学内では得られない現場体験を通じ、大きな成長を遂げています。

4年間の流れ Process

	実習	理論
1年次	●写真基礎演習Ⅰ 光の認識、写真表現の仕組み、カメラの操作から撮影、デジタルのプリントシステムから仕上げ方法まで、写真についてのあらゆる基礎知識を実習と講義を通して身につけます。  ●写真技術Ⅰ 黒白フィルムによる撮影・現像・プリントシステムを使った作品制作実習を行いながら、銀塩写真の基礎を学びます。 	●写真史Ⅰ 写真技法と写真表現の変遷を学び、写真先進国・欧米の写真の歴史について基礎的な知識を身につけていきます。 ●写真史Ⅱ 幕末・明治から現代に至る日本の写真史を学び、日本独特の写真のあり方について理解を深めていきます。 ●イメージングプロセス論Ⅰ・Ⅱ 銀塩及びデジタル写真における作画プロセスの基本的な理論を学び、作品制作のための幅広い知識を身につけていきます。 ●写真光学 光の性質やレンズの特性など、写真撮影に必要な写真光学の基礎的な知識を身につけていきます。 ●写真色彩学概論 写真制作に必要な色彩知識を深め、色の組み合わせ方やその特性について学びます。
2年次	●写真基礎演習Ⅱ 小型カメラと大型カメラの基礎技術やスタジオライティングなどを学び、それぞれの特徴を生かした作品制作を行います。  選択科目 「ポートレート」を選択できます。	●写真作家作品研究Ⅰ～Ⅵ 写真誕生から現代までに生み出された名作とその時代に活躍した写真家について学びます。 選択科目 「写真化学」「カメラメカニズム」などを学ぶことができます。
3年次	●写真基礎演習Ⅲ 表現方法の理解を深め、技術を広げながら、制作、実験、研究を行い、その発表を通し、各自の方向性を探ります。  選択科目 「広告写真」「報道写真」「建築写真」「ファインプリント」「特殊技法」など、幅広い写真制作の授業を、各自の興味と将来を見据えて選択できます。	選択科目 「広告写真」「報道写真」「現代写真」「写真印刷」「写真表現文化論」などの理論について学ぶ科目。また、写真の編集の仕方などを学ぶ科目もあります。
4年次	●ゼミナール 一人ひとりの将来の方向を見据えた個人指導を中心に、専門的かつ実践的な理論・制作の演習が行われ、「卒業制作」や「卒業論文」にまとめていきます。 	●写真芸術学Ⅰ・Ⅱ 先人の写真論や写真芸術論を通し、「写真とは何か」という写真芸術の本質的な問題について考えていきます。 

卒業後の進路 Career

新聞社や雑誌社、広告代理店、写真スタジオ、写真事務所などに多くの卒業生が進んでいます。
撮影や制作を通して培ったコミュニケーション能力や表現力を活かした職業に就く学生もいます。

【過去3年間の実績】

株式会社中日新聞社／株式会社時事通信社／株式会社小学館スクウェア／株式会社朝日新聞出版／株式会社講談社／光文社サービス株式会社／株式会社共同テレビジョン／株式会社J-WAVE／株式会社電通クリエーティブX／株式会社東京アドデザイナース／株式会社博報堂プロダクツ／株式会社アマナ／株式会社アン／株式会社たき工房／株式会社ティー・ワイ・オー／株式会社イイノ・メディアプロ／株式会社スタジオエビス／有限会社六本木スタジオ／株式会社アフロ／株式会社資生堂／株式会社スターダストプロモーション／株式会社ソニー・ミュージックアーティスツ／株式会社ビックカメラ／株式会社ヨドバシカメラ／東日本旅客鉄道株式会社／全日本空輸株式会社／城北信用金庫／株式会社産業経済新聞社／信濃毎日新聞株式会社／株式会社日本電波ニュース／一般社団法人 家の光協会／株式会社産業編集センター／株式会社光潮社／株式会社らかんスタジオ／株式会社林写真館／株式会社清和堂／代官山スタジオ／株式会社10BANスタジオ／有限会社ギアハウス／ダイアモンドヘッド株式会社／株式会社写真引社／株式会社堀内カラー／株式会社良品計画／東京女子医科大学／防衛省陸上自衛隊／公務員（東京都）　ほか

作品紹介 Gallery

受賞作一覧

1 『全身犯罪者』(2020年度 卒業研究)
- **カナザワ映画祭2021　期待の新人監督　観客賞**
- **ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2021**
- **インターナショナル・ショートフィルム・コンペティション　ノミネート**
- **第16回札幌国際短編映画祭　アウト・オブ・コンペティション上映**

2 『滲む』(2020年度 映像表現・理論Ⅲ)
- **London Indie Short Festival of 24 Frames March 2021**
- **Best experimental**
- **Hong Kong Indie Film Festival April 2021:Best student short**
- **The Buddha International Film Festival 2021**
- **Best Experimental Short Film Award**

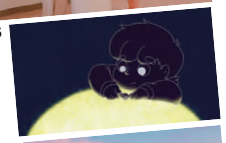
3 『Sleepless Night』(2020年度 卒業研究)
- **東京1st映画祭2021　企業賞**
- **第27回学生CGコンテスト　SILVER（小林浩康審査員賞）**
- **ICAF2021観客賞　第4位**

4 『飛べなかった燕』(2020年度 卒業研究)
- **南区 U-40 アートフェスティバル2020　優秀賞**
- **うみねこ映画祭　うみねこ賞**

5 『答え合わせのないあなた』(令和元年度 卒業制作)
- **第14回　アジア国際青少年映画祭　優秀賞**
- **第7回　アジア大学生映画祭　銀賞**


1


2


3


4


5



学科の活動 Activity

映像表現・理論コースによる学生映画祭

「ジェンダーギャップ映画祭」(2021)

2021年で11年目をむかえた映画学科映像表現・理論コースによる学生映画祭。これまでに「映画祭1968」(2011)、「新・女性映画祭」(2012)、「監督、映画は学べますか?」(2013)、「ワーカーズ2014」(2014)、「ニッポン・マイノリティ映画祭」(2015)、「信じる人をみる　宗教映画祭」(2016)、「映画と天皇」(2017)、「朝鮮半島と私たち」(2018)、「スポーツの光と影」(2019)、「映画祭中国を知る」(2020)と開催してきました。

主な施設 Facility


1


2


3


4

1 撮影スタジオ
2 ビデオ試写室
3 録音スタジオ1
4 現像機室

映画学科HPへ
教員スタッフ・授業紹介ほか

8つのアート1つのハート
NU Art
日本大学藝術学部

百藝
1921－創設100周年－2021
Nihon University College of Art

日本大学藝術学部

映画学科

CINEMA





• NU ART •

• 2023 •

映画学科

進化を続ける芸術の集合体

映画の表現世界は、サイレントからトーキーへ、白黒からカラーへと、さまざまな変化を遂げてきました。デジタル技術の急速な進歩で、映像表現の可能性はますます広がり、私たちの目の前には、新たな表現の世界が待ち受けています。コンピュータなどに代表されるデジタルメディアは、今や身近で欠かすことのできないコミュニケーションツールとなり、個人の表現世界も大きく広がりつつあります。

学びのポイント Keyword

POINT 1 4つのコース

本学科は、映画理論にアプローチすると同時に、評論家や研究者、シナリオライター、映像メディアの制作者を育成する「映像表現・理論コース」、映像作家を育成する「監督コース」、映像技術の専門家を育成する「撮影・録音コース」、映像メディアで活躍する演技者を育成する「演技コース」の4コースに分かれています。学生がそれぞれの分野のスペシャリストに成長できるよう、各コースで用意された独自のカリキュラムにより高度な専門知識と技術を身につけていきます。

POINT 2 多彩な授業

「映画芸術学」や「日本映画史」、「外国映画史」、「シナリオ論」といった全コース共通の必修科目の他に、コースごとに段階制の科目が設けられています。4年次にはそれぞれの専門的な学びの集大成として、卒業論文・卒業シナリオ・卒業研究・卒業制作に取り組みます。また、選択科目として多彩な授業が用意されており、理論や歴史、研究方法、多様な表現技術について学ぶことができます。

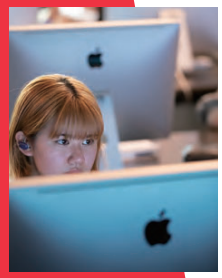
POINT 3 アワード

芸術学部では、各年度の卒業論文・卒業シナリオ・卒業研究・卒業制作の優秀なものに対して、芸術学部長賞、芸術学部奨励賞、渡辺俊平記念賞などを授与。さらに映画学科では、映画学科奨励賞や映画学科特別賞などを授与しています。このような学内の表彰のほか、国内外の映画祭などにも積極的に参加。アメリカの学生アカデミー賞やドイツのオーバーハウゼン国際短編映画祭、国内ではSKIPシティ国際Dシネマ映画祭など、さまざまなコンテストで多数の入選・受賞歴があります。

コース紹介 Course

映像表現・理論コース

理論・批評、シナリオ、映像の3つの専攻を軸に、映像の研究と創造の基礎課程を経てそれぞれの専門の研究、創作をします。理論の探究および、映画の基になるシナリオからアニメーション、メディアアートなど、さまざまな映像芸術の研究・企画・創作にアプローチしていきます。また、映像ビジネスに関する講座を充実させ、現在のものに対応した人材、新たな映像ビジネスを開拓していく人材の育成をめざします。



監督コース

ドラマ、ドキュメンタリー、アニメーションなどジャンルにとらわれず映像を用いた物語世界の構築がコースの基本理念です。そのための表現技術の習得や物語内容の追究を目的としてカリキュラムを構成しています。また、映画制作の世界は個人制作だけでなく集団創造の場という基本的な側面を踏まえて、スタッフワークなどの重要性を「撮影・録音」「演技」コースとコラボレーションしながら身につけていきます。映画の演出のみならず脚本や撮影、編集技法など幅広い知識を持ったクリエイターの育成を目的としています。



撮影・録音コース

映画制作の根幹となる映像と音響の技術を習得するために、「撮影」「録音」の領域から実践的なカリキュラムを構成しています。1年次より、フィルム、デジタルの両面から各種の機材を用いた実習を中心として、表現技術のあり方を追究していきます。さらに、原理となる自然科学の知識を得て、より深い技術的教養を育みます。2年次以降は、「監督」「演技」コースとの共同作業を行い、照明技術や特殊撮影、仕上げ作業に至るまで幅広く実践力を培います。3年次からは適性や志望分野に専攻を絞り、作品制作や研究活動を継続していきます。



演技コース

映画俳優の育成をめざして、実践的なカリキュラムを用意しています。1・2年次には発声など演技の基礎訓練、音楽・日舞・洋舞などによる身体表現、感情表現などを通して、演じるために必要な基礎力を育成します。「監督」「撮影・録音」コースと実習作品／卒業制作などを制作することで、映像制作に関する知識や現場への理解を深め、脚本の読み取りから、役づくり、撮影やアフレコ作業といったさまざまな制作過程や、演技者としての日常訓練の方法を習得していき、映画人として必要なバイタリティーや体力、精神力を身につけていきます。



授業紹介 Class

●映画演技実習Ⅰ・Ⅱ



演技コースの根幹となる2年次の授業です。1年次の映画演技基礎で学んだ技術を、さらに発展させるために必要な感情の解放と集中を会得するための身体訓練を行います。また、既成の台本を用いて、役づくりの具体的な方法論を学びます。さらに、「監督」「撮影・録音」コースと合同で実際に作品を制作します。

●映画芸術学Ⅰ・Ⅱ

映画学科の根幹をなす講義で、映画学科1年次の全コース必修授業です。映画とは何か？ ビジネスであり芸術でもあるという映画の両義性が果たす役割について、具体的な映像や文献を示しながら、映画の基本的な特性について学びます。他学科公開の授業です。

●映像概論

映像表現・理論コース1年次の授業です。映画以外のさまざまな映像メディアが存在する現在、映像というものの持つ特性や歴史について学び、映像メディアについての基礎的な教養を身につけるとともに今後の新たな課題も検討します。

●シナリオ基礎

映像表現・理論コース1年次の必修授業です。シェークスピア、ギリシア悲劇、民話などを題材に「物語とは何か？」について学びながら、シナリオを執筆するための基礎知識を身につけていきます。

●映画技術Ⅰ・Ⅱ

撮影・録音コースの根幹となる1年次の授業です。フィルム・デジタル両面の撮影機や録音機の取り扱いを基本として、短編の劇やドキュメンタリー作品を制作します。単に機器の取り扱いにとどまることなく、それらを用いることでどのような表現をなし得るのかを身につけます。

●録音研究Ⅰ

撮影・録音コースの授業です。大小さまざまな規模の録音スタジオを用いて、機材の取り扱いから録音、ミキシングなど実戦的にスタジオ・ワークを身につけます。

●アニメーションⅠ・Ⅱ



映画学科2・3年次を対象とした実習授業です。アニメーション制作を志す学生のための授業で、クリエイターの育成が授業の狙いです。実際に作品を制作することが目的であり、そのための技術的な手法を段階的に身につけていきます。

●日本映画史Ⅰ・Ⅱ

Ⅰは映画学科1年次の必修授業です。前期のⅠ、後期のⅡに分かれており、Ⅰでは、主として戦前までの映画の歴史を、Ⅱでは戦後を中心に学びます。Ⅰ・Ⅱを通して、外国映画とは異なる日本映画独自の展開を理解することになります。他学科公開の授業です。

●映画編集（監督、撮影・録音コース）

「監督」「撮影・録音」コース3年次の授業です。編集機材の取り扱いは1・2年次に終えているので、作品鑑賞を通して「編集」という側面からの映画についての素養や、実作の指導を通して「編集」がいかに映画を成立させるものであるかを理解するとともに、表現技術を習得します。「映像表現・理論」コースを対象とした授業も開講しています。

●映画演出Ⅰ・Ⅱ

監督コースの根幹となる1年次の授業です。実際に短編の劇やドキュメンタリー作品の撮影・演出・編集を行うことで、人間感情の基本的な表現手法や、物語を映像として表現する際に考慮すべきことなど、映画演出の基礎を体得します。

●映画鑑賞批評Ⅰ・Ⅱ

映画学科1・2年生全コースを対象とした授業です。長編劇映画の名作はもちろんのこと、短編映画、文化映画、ドキュメンタリー映画、アニメーションなど幅広いジャンルの映画を鑑賞することで基礎的な知見を養います。また鑑賞後、映画に対する批評をレポートとして提出します。

●映画ビジネスⅢ・Ⅳ

映像表現・理論コース3年次を対象とした授業です。前期のⅢ、後期のⅣに分かれており、Ⅲでは映画会社へのインターンシップを通して、Ⅳでは学生が自分たちの手で映画祭を企画・運営することで、映画ビジネスの実際を学びます。

卒業後の進路 Career

映画制作の現場などでフリーランスとして活動するだけでなく、
映画、アニメ、テレビ、CMなどの関連会社に就職する人も多くいます。

【過去3年間の実績】

株式会社AOI Pro.／株式会社アップサイド／株式会社アームズ／イオンエンターテイメント株式会社／株式会社IMAGICA Lab.／株式会社NHKテクノロジーズ／株式会社共同テレビジョン／株式会社クリーク・アンド・リバー社／株式会社クレイジーティブィ／株式会社ジュピターテレコム／スプーン／高津装飾美術株式会社／株式会社TBSテレビ／株式会社ティー・ワイ・オー／株式会社TTR（TYOグループ）／株式会社TREE Digital Studio／株式会社テレビマンユニオン／株式会社電通クリエーティブX／東映ラボ・テック株式会社／株式会社東通企画／東宝芸能株式会社／株式会社ナックイメージテクノロジー／日テレアックスオン／ヌーベルアージュ株式会社／株式会社博報堂プロダクツ／株式会社ピクト（電通グループ）／株式会社ホリプロ／株式会社レイ／レスパスビジョン株式会社／株式会社ロボット　ほか

8つのアート1つのハート

NU Art

日本大学藝術学部

百藝
1921–創設100周年–2021
Nihon University College of Art

作品紹介 Gallery


1


2


3


4


5


6

1 向井 葉月「シンデレラ」
カンヴァス・油彩 162.0×130.3

2 小原 小百合「HUG」
ミクストメディア 218.1×218.1（変形）

3 長沼 翔「Girl 9.1」
銅版 606×950

4 東尾 文華「風になって」
水性木版・銅版 560×840

5 宇野 英里香「Bacterial Explosion」
EVA、楠、針金 77x78x250、90x90x250

6 北村 瑛芽「喜怒哀楽」
鉄、彩色（ペンキ） 可変

主な施設 Facility


1


2


3


4


5

1 絵画アトリエ
2 屋外制作場
3 版画アトリエ
4 金属アトリエ
5 木工アトリエ

美術学科HPへ
教員スタッフ・授業紹介ほか

日本大学藝術学部

美術学科

• NU ART •

2023

FINE ARTS

美術学科

無限に変化を遂げる美の原点

美術はさまざまな芸術の中で、歴史的にも大きな役割を担ってきました。そしていま、科学技術の進歩や生活革新が急速に進み、美術も多様な変化を生み出しています。このような美術の変化を見極める一方で、過去から現在、未来へとつながる普遍的な「本質」を探り、人間が本来持っている豊かな創造力を育て、新しい美術の創造をめざす人材育成を教育理念としています。

学びのポイント Keyword

1 POINT コースと専攻

絵画コース、彫刻コースの2コース制を基に、絵画専攻、版画専攻、彫刻専攻、地域芸術専攻（新設）で構成されています。それぞれの専門性にしっかりと軸足を置いたカリキュラム編成と少人数教育により、学修効果を高めます。演習や実習・創作活動と並行し充実した理論・歴史部門、研究部門の科目も設置し、作家育成と同時に、美術教員、学芸員、批評家などアートに携わる人材を育成します。

2 POINT 創作演習と共通演習

各専攻における制作実習は、4年次まで段階的に履修します。1年次は基礎、2年次は基礎からの発展や、隣接する技術を体得していきます。3年次からは応用と個人制作が始まり、4年次は、卒業制作に取り組みます。段階的制作実習に加え、1年次には「デッサン、版画基礎、彫塑」という共通カリキュラムを実施。美術全般の基礎を養い、表現に関する視野を広げます。

3 POINT 学外プロジェクトと資格

東京23区内の芸術総合大学としての地の利も生かし、美術館や展覧会での作品鑑賞に容易に行くことができます。また、地域との交流も大切にし、地域アート、芸術祭、工房などの施設見学などにも積極的に参加しています。学内でも現在活躍中の作家や評論家による特別講義などを行い、時代や社会との接点を積極的に設けています。

コース紹介 Course

絵画コース 絵画専攻

絵画の基礎および普遍性を重んじ、4年間じっくりと腰を据えて「絵画」を学び「絵」を描けるのが、絵画コース絵画専攻の最も大きな特徴といえます。日藝のキャッチフレーズは「ふつうじゃない、が、ふつうです」ですが、「普通」とは「普遍に通ずる」ということ。そのためには、まず揺るぎない基礎を培うことが何より重要であり、その先にこそ「絵画」を学ぶ本質が現れてくると考えます。特に1・2年次は、デッサンおよび油彩で「人体」を描くことを基本に据え、西欧近代以降の色、形、コンポジション、そして絵画空間の考え方を主軸としたカリキュラム構成です。日藝絵画での4年間は、絵画による表現の確立と同時に、個々の自立を目指します。



絵画コース 版画専攻

版画専攻では描くことの基礎的な力を身につける為に、対象の中にある構造を理解し具体化することでデッサン力を身につけます。そして、鉛筆による細密描写やムービングによるドローイング、ペンによるイラストや製本による絵本制作、活版印刷によるイメージとことばのコラボレーションなど、感性を刺激する授業を行います。そして、感性を磨きながら、イメージを写し取る版画表現の基礎から応用まで学びます。紙の持っている可能性にも着目し、表現や素材の幅を広げていきます。表現を深めることにより個々の作家としての自立を目指します。基礎的な力を踏まえながら、版の表現を学びます。各自の研究制作の糧となるよう、しっかりと基礎を固めます。



彫刻コース 彫刻専攻

現代の芸術の輪郭は非常に柔軟で、時間的進度が早くその価値を判断することを見解できない状態にあります。そんな柔軟な輪郭を持つ芸術それぞれに教育理念と方法があります。しかし通底するのは、個人の視座の育成以外ありません。ものを見る力、ものを造る力を育てることは、彫刻の視座を持つことであり、時代に流されない人格形成の基盤となります。自然観察、塑像によるモデル実習、実在実習（木、石、鉄）等を通じて彫刻の基礎を修得し、個々の自由な発想による自主制作へと進みます。4年間という貴重な時間を、作品を制作するという時間に費やすことは、彫刻という輪郭から社会との接点を考えることと同義であると考えています。



彫刻コース 地域芸術専攻

社会が抱える問題をアートの力によって、直接社会と繋がり、人の心を豊かにする実践力を身につけます。日藝の彫刻コースでは、2004年より参加している大地の芸術祭を中心に、アートの力を信じて日本における社会問題に、真摯に向かい合っている実績があります。地域芸術専攻ではこうした活動で生まれる様々なコミュニティに対応可能な視野の広い経験値を持った人材を育成します。これまでの活動を通じて日本の抱える問題をアートの力で変えていく可能性があることは、少しずつ浸透してきました。こうした社会の動きの中で生まれた活動と新たな行動を起こすことの勇気を継続していきます。体験による経験を糧に社会で生きる力をつけてもらいたいと考えています。



4年間の流れ Process

		1年次	2年次	3年次	4年次
絵画コース	絵画専攻	自画像、基礎デッサン、静物、人体、風景、イメージ、ドローイング	自画像、静物、人体、インスタレーション、イメージ、ドローイング	自画像、静物、人体、インスタレーション、イメージ、ドローイング	卒業制作
	版画専攻	「感性を刺激する」基礎デッサン（鉛筆・ペン他）、基礎素材、色彩（アクリル・水彩・色鉛筆・パステル他）、イメージドローイング	「表現を広げる」版による基礎（リトグラフ・銅版・木版・活版・モノタイプ他）、イメージによる基礎（イラスト・絵本他）、イメージドローイング・ボックスアート	「表現の選択する」版による応用（リトグラフ・銅版・木版・活版・モノタイプ他）、イメージによる応用（イラスト・絵本他）、イメージドローイング	「表現を深める」卒業制作
彫刻コース	彫刻専攻	木彫（デッサン）、塑像（首）、実材実習（木・石・鉄）、人体塑像、石膏取り	人体塑像、石膏取り、テラコッタ実習、実材実習（木、石、鉄）、シリコン、FRP実習	自由制作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、塑像	卒業制作
	地域芸術専攻	木彫（デッサン）、塑像（首）、実材実習（木・石・鉄）、人体塑像・石膏取り、デッサン基礎（地域芸術専攻のみ）	PC基礎、基礎デザイン、写真、映像、リサーチアート、制作実習（芸術祭）等、インターン等	リサーチアート、インターンリサーチ、展覧会構成演習、個別演習、ゼミナール	インターン、卒業論文／卒業制作
共通		デッサン、版画基礎、彫塑 美術史概論、美術作品研究 美術特別講座、美術特別研究		美術学、解剖学、素材研究、西洋美術史、東洋美術史、日本美術史、美的構成研究、美術作品研究、古美術研究 版画概論	
教職		デザイン論、図学	工芸演習、美術科教育法	美術教材研究、映像メディア研究 工芸科教育法	教職実践演習（中・高）美術、教育実習事前・事後指導

卒業後の進路 Career

美術作家として活躍する他、一般企業で美的センスを生かした仕事に就く人が多くいます。
また、教員、学芸員として活躍する人が多いのも特徴です。

【過去3年間の実績】

株式会社村井／株式会社ローザ／ジュングループ／シンコール株式会社／丸眞株式会社／葉隠勇進株式会社／株式会社イー・アイ・ソル／株式会社EMOTION／株式会社サンライズ／株式会社善波／株式会社アレックス／株式会社東京堂／株式会社グッドスマイルカンパニー／株式会社こどもの森／城北伸鉄株式会社／株式会社Mテック／株式会社ロピア／株式会社明日葉／パーソルキャリア株式会社／株式会社エヌリンクス／学校法人五浦学園 ママの森幼稚園／日本郵便株式会社／警視庁職員信用組合／ファシリティパートナーズ株式会社／株式会社コベル／Art word株式会社／やないづ町立斎藤清美術館／株式会社ベネッセスタイルケア／まいばすけっと株式会社／松本市立筑摩野中学校／株式会社ワールドホールディングス／ソフィーナビューティカウンセリング株式会社／株式会社マーキュリー／有限会社スタジオMAO／木曽町役場／有限会社花の進化園／株式会社ぎゃろっぷ／一般財団法人本所賀川記念館／株式会社エナジード／株式会社キャメル珈琲（カルディコーヒーファーム）／株式会社秋山工房／株式会社総合舞台／アートコーポレーション株式会社／株式会社アルテカ／日経印刷株式会社／株式会社三和／株式会社はま寿司／株式会社村田製作所／株式会社ビッグモーター／ヤマト運輸／防衛省陸上自衛隊／ビオセボン／株式会社ケイ・ブックス／くら寿司／フリーランスイラストレーター／中学校・高校美術教員（埼玉県教育委員会・品川区教育委員会・東京都教育委員会）　ほか

8つのアート1つのハート

NU Art

日本大学藝術学部

日藝
1921－創設100周年－2021
Nihon University College of Art

学科の活動 Activity


1


2


3


4


5


6

1 作曲コース
卒業作品の演奏

2 音楽教育コース
卒業論文要旨発表会

3 ピアノコース
ピアノコンサート

4 弦管打楽コース
ウインドオーケストラ定期演奏会

5 情報音楽コース
レコーディング風景

6 声楽コース
オペラ公演

主な施設 Facility


1


2


3


4


5

1 音楽小ホール
2 音楽実習棟練習室
3 レッスン室
4 音楽学科スタジオ
5 音響測定室

音楽学科HPへ
教員スタッフ・授業紹介ほか

日本大学藝術学部

MUSIC

• NU ART •

• 2023 •

音楽学科

音楽学科

音楽という共通言語で夢を語ろう

音楽学科は、芸術総合学部の音楽学科として、広い視野と豊かな教養を培いながら、深い専門知識を身につけた音楽人を養成しています。作曲・理論、音楽教育、声楽、ピアノ、弦管打楽、情報音楽の6コースに分かれ、専門教育を実施。豊かな人間性を備えてこそ一流の演奏家、音楽人であるという考えのもと、教授陣と学生同士のふれあいを大切にしたきめ細かな個別指導を行っています。

学びのポイント Keyword

POINT 1 6つのコース

本学科は、作曲・理論、音楽教育、声楽、ピアノ、弦管打楽、情報音楽の6つのコースで構成されています。創作、教育、演奏という大きな柱のもと、幅広い教育を展開。1年次で音楽史や音楽理論、和声、ソルフェージュなどを学び、各コースの基礎的な知識や技術を習得します。

POINT 2 マン・ツー・マン教育

各分野の第一線で活躍する講師陣が、学生一人ひとりの特性を把握しながら親身な指導を行っています。作曲や声楽、各種楽器の実技やゼミでは、学生の個性や感性を尊重。マン・ツー・マン体制でレッスンを行い、独自の方向性や表現力を生かした自由な創作活動に取り組めるよう、徹底したサポートを実施しています。

POINT 3 徹底した実技演習

本学科の学びにおいて特に力を入れているのが、作品創作、研究論文、実技演奏の習得。実技演習を行う授業を多数用意し、確かな技術と豊かな人間性を兼ね備えた一流の演奏家・音楽人を育成しています。また、国内外の著名講師を招いての特別講義や、社会との交流を図る地域コラボ、定期演奏会やオペラ公演、ピアノコンサートなど、学習意欲を高める取り組みも実施しています。

コース紹介 Course

作曲・理論コース

一人ひとりの学生に、自分自身の創作の世界を見つけ独創的で良質な音楽を生み出していって欲しい、そんな考えのもと作曲コースでは、第一線で活躍する経験豊かな作曲家たちが、学生の個性を大切にした丁寧な指導を行っています。クラシック音楽の作曲技法の学習をベースにしながら、現代音楽、日本の伝統音楽、民族音楽、映像や演劇の音楽、最先端のテクノロジーの学習などを絡めて創作の幅を広げていくことが可能です。オーケストレーションや、作曲家の発想を演奏家に正確に伝える技術としての記譜法など、実践的な側面の学習にも重点を置いていて、学生が作曲した作品を実際に音にしてみる機会も充実しています。

理論コースでの研究の対象は、理論、作曲家、作品、楽器、歴史、文化、社会などと極めて多岐にわたります。授業では、音楽学的研究の多様性と、それらにアプローチしていくためのさまざまな方法を、基礎から学ぶことが出来ます。その後、各々の学生が選びとったテーマについて、その領域のスペシャリストの指導のもとに研究を深め、卒業論文の作成を目指します。西洋音楽はもちろんのこと、日本の伝統音楽や世界各地の民族音楽、あるいは、現代の音楽などについて学ぶ機会も充実しています。和声、作曲、音楽形式、作品分析などの学習、また、ピアノや声楽などの演奏技術の習得にも力を注いでいます。





音楽教育コース

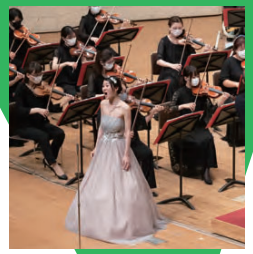
音楽教育コースでは、中学・高校の音楽科教員の養成を行っています。本コースの特徴の1つは、音楽科教員として身につけておきたい音楽療法の知識とスキルが学べることです。近年、文部科学省はインクルーシブ教育を推進しており、学校現場ではさまざまな背景をもつ生徒に対応できる音楽科教員が求められています。音楽療法の視点に基づく知識や生徒への対応力などを身につけておくことは、音楽科教員として大きな強みとなるでしょう。また、従来の学校教育を基盤として、さらに柔軟な視点をもった音楽教育実習や学習指導要領に沿った雅楽や箏などの邦楽器が学べる授業もあります。新たな発想で音楽教育の「今」を見据え、これからの時代が求める音楽科教員を養成していきます。

*令和元年度以降の入学者は学会認定音楽療法士(補)の受験資格は取得できません。



声楽コース

声楽コースは、歌うことの大好きな人たちばかりです。大きな響く声で笑っていたら、それはきっと声楽コースの学生です。もちろん先生はもっと大きい声で、もっと響く声で、笑っているでしょう。とは言え、大学の音楽学科で勉強して、歌うことのプロを目指している学生なので、基礎の歌曲からちょっと難しいオペラまで幅広く勉強し、お客様に歓びを分け与えられる歌手を目指して、日々精進しています。語学や一般教養で人間を磨き、レッスンや合唱の時間、オペラ実習などで実践を重ね、オーケストラと共演したり、メイクをしてオペラの舞台に立ったりします。きっと楽しい学生生活が送れることでしょう！



ピアノコース

ピアノコースは、徹底したマン・ツーマン教育(個人レッスン)により、各自の志望を尊重しつつ、個性豊かな演奏能力の向上を目指します。ピアノを生かす道は、演奏家、伴奏者、指揮者などさまざまです。基礎的な訓練から、より高度な技術の習得に向けて、バッハから古典派、ロマン派、より高度な近・現代音楽にいたる段階的なレパートリーのカリキュラムをもとに、必要な表現力、ペダリング等の技術を学びます。それらの研究成果を、試演会の舞台で発表し、研鑽を積んでいきます。

また、試演会により、ピアノコンサート、定期演奏会、その他にも室内楽、ピアノコンチェルト等の発表の場が用意されています。



弦管打楽コース

独奏、室内楽、管弦楽、吹奏楽などのさまざまな演奏形態への対応が求められる弦管打楽コースでは、各分野とも演奏の実践教育を中心に、少人数制による徹底した演奏家養成教育を行っています。

指導にあたるのは、世界各国で開かれるコンクールで審査員を務めたり、あるいは日本を代表するソリストやオーケストラの首席演奏者など一流の講師陣。現場での体験を生かした実践的な指導により、演奏家としての高度な実力と実践力を養えます。オーケストラ定期演奏会や、ウインドオーケストラの演奏会、室内楽演奏会など、発表の場がたくさん設けられているコースです。卒業後は自衛隊や消防・警察音楽隊への入隊や、中学・高校の音楽教師などへの道に進む学生もいます。



情報音楽コース

情報音楽コースでは、音楽情報処理技術を身につけ、これまでにない新たな音楽分野を開拓しています。コンピュータが日常社会に普及して、音楽表現のありかたや音楽ビジネスはここ数年大きな変容を遂げました。この状況に対応するため、情報音楽コースでは、音楽の学習とともに、音響学、音楽情報処理の徹底的な指導によって、最先端の表現を可能にする人材を育成しています。国内外で活躍する教員の指導のもと、Pro Toolsなどの音楽制作で広く用いられているソフトウェアはもとよりC言語、Python、MaxMSP、Arduinoなど、より専門的な研究のためのソフトウェアも授業で取り扱います。アーティストとして活躍する卒業生、アイドルグループの作曲家、ソニー・ミュージックエンタテインメント、エイベックスなどのレコード会社、セガ、バンダイナムコエンターテインメントなどのゲーム会社、日本テレビなどの放送業界、AppleやGoogleなどのIT業界、メーカーに多くの卒業生を送り込んでいる実績があり、4年間で学んだ表現力、研究開発力、実行力を世に証明しています。



卒業後の進路 Career

演奏家や音楽家だけでなく、教員などの専門職、楽器製造会社、レコード会社、エンターテインメント企業など、幅広い分野で活躍しています。

【過去3年間の実績】

株式会社ヤマハミュージックジャパン／島村楽器株式会社／株式会社四季／USEN-NEXT HOLDINGS／アークシステムワークス株式会社／東急リゾーツ&ステイ株式会社／株式会社星野リゾート／ハイランドリゾート株式会社／株式会社リオクリエイティブ／株式会社日テレ・テクニカル・リソーシズ／クラシエホームプロダクツ株式会社／タンゴヤ株式会社／株式会社タオエンターテインメント／株式会社テアトルアカデミー／株式会社東通／株式会社創英コーポレーション／株式会社COUNTERWORKS／株式会社ファイブフォックス／大島椿株式会社／株式会社埼玉第一興商／東京建物不動産販売株式会社／積水ハウス株式会社／消防音楽隊／自衛隊音楽隊／小学校教員／中学校教員／高等学校教員　ほか

8つのアート1つのハート

NU Art

日本大学藝術学部

百藝

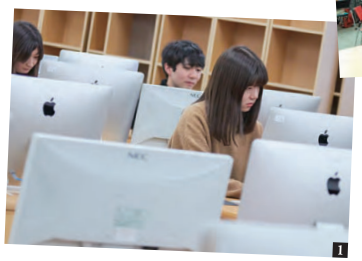
1921－創設100周年－2021

Nihon University College of Art

作品紹介（2021年度に発行されたゼミ雑誌の一部） Gallery



主な施設 Facility









1 DTP室
2 文芸ラウンジ
3 文芸資料室
4 資料室

文芸学科HPへ
教員スタッフ・授業紹介ほか

日本大学藝術学部

文芸学科

・NU ART・2023・

LITERARY ARTS

文芸学科

本当の答えを見出すために

文芸学科は、文学研究に主眼をおいた文学部の文芸学科とは異なり、文芸的な創造力と表現力を養うことを目的としています。つまり文学研究の場である以上に文学を紡ぎだす場であり、その領域は詩・小説・戯曲・批評にとどまらず、広くジャーナリズムの世界にも及んでいます。表現活動を通して、主体的に「文芸」そのものを理解する学科なのです。

学びのポイント Keyword

POINT 1 創造と表現

本学科は、文芸的な想像力と表現力を培うことを目的としています。文学研究の場である以上に、文学を紡ぎだす場であり、その領域は詩や小説、戯曲、批評にとどまらず、ジャーナリズムの世界にまで及んでいます。本学科の教育の中心にあるのが、1年次から基本的な授業科目として設けられている「文芸研究（ゼミナール）」。創作活動の指導と実践を目的に、創作合評や「ゼミ雑誌」の編集を行います。

POINT 2 実習と講義

本学科のカリキュラムの特色として、幅広い文学ジャンルへの関心を深めるための講義が充実していることがあげられます。文芸創作、ジャーナリズム、DTPなどの各分野について、専門的な知識と経験が身につく授業を数多く用意。書くことや発表することに積極的に取り組み、知的創造力にあふれた人材をめざします。

POINT 3 オムニバス授業

文学を深めていく準備として、文学への多様な入り口を知るオムニバス授業を実施しています。各界から著名な講師を招いて授業を行うことで、生きた知識が得られます。多彩なジャンルの文芸体験を通して、これから取り組む創作活動の方向性を探ります。

特別講座 Special lecture

現在業界で活躍している方々の新鮮な講義を積極的に取り入れるため、特別講座などを開講しています。生きた知識を得る機会がたくさんあります。

［ 2021年度 文芸学科特別講座 ］

内容	講師	実施日	講座名（担当教員）
好きなものをずっと好きでいさせて	谷口明日香	6月4日（金）	雑誌研究Ⅰ（雑誌研究）／谷村順一
「文芸記者という仕事」	待田晋哉	6月24日（木）	小説論Ⅰ（小説論）／楊逸
「タイムスリップ・日本語」	山口恭子	7月13日（火）	表現領域拡張講座Ⅰ（文芸特殊研究Ⅰ）／ソコロワ山下聖美
コラムサイト「デイリーポータルZ」における企画立案や記事制作の方法	北村ヂン　林雄司	10月25日（月）	文芸特殊講義Ⅶ（文芸特講Ⅵ）／小神野真弘
三代目若松若太夫説経節「小栗判官」実演と対談	小峰孝男	11月10日（水）	日本文化史Ⅱ（日本文化史）・古典文学史Ⅱ（古典文学史）・文芸研究Ⅱ／上田薫
「週刊誌編集の仕事」について	由井恵美	11月16日（火）	出版文化論Ⅱ（出版文化論）／ソコロワ山下聖美
「誰が星の王子様を殺したのか?」	安雲歩	11月18日（木）	小説論Ⅱ（小説論）／楊逸
「オンラインメディアの仕事」について	阿久澤騰	12月7日（火）	出版文化論Ⅱ（出版文化論）／ソコロワ山下聖美
音楽雑誌編集の実際について	小熊俊哉	12月17日（金）	雑誌研究／谷村順一
「編集者（文藝春秋社）の仕事」について	山下奈緒子	12月21日（火）	出版文化論Ⅱ（出版文化論）／ソコロワ山下聖美
「編集者（フリー）の仕事」について	小山宣宏	1月11日（火）	出版文化論Ⅱ（出版文化論）／ソコロワ山下聖美

江古田文学

文芸学科の中に編集部を置く文芸誌『江古田文学』。「江古田文学賞」を受賞した卒業生の中には、現在、作家として活躍中の人もいます。

文芸学科では、在学生や芸術学部校友を中心にした江古田文学会を設立し、文芸学科の中に編集部を置く文芸誌『江古田文学』を年3回発行。この文芸誌は、芸術を学ぶ場に生まれた雑誌にふさわしい、あらゆる創作者たちの文学的営為の拠点となる雑誌として、さまざまな特集を企画しています。『江古田文学』が主催する「江古田文学賞」では、小説・文芸評論などを公募スタイルで募集し、厳正な審査のもと年1回受賞者が発表されています。特に第4回受賞者の文芸学科生・飯塚朝美さん（2006年度卒）が2008年度の「新潮新人賞」を受賞して作家デビューするなど、めざましい成果を挙げています。



4年間の流れ Process

1年次

文芸学科では、1年次から少人数制の文芸研究Ⅰ（ゼミ）があり、作品研究発表や、創作を読みあっての合評、「ゼミ雑誌」の編集など、少人数だからこそ可能な授業を行っています。また、DTP演習など、専門技能を身につけるための実践的な授業も、1年次より履修することができます。

2年次

1年次は学生証番号によってクラス分けされた文芸研究Ⅰ（ゼミ）で学ぶことになりますが、2年次の文芸研究Ⅱからは、希望により、小説・詩・文芸批評・ジャーナリズムなど、専門分野に特化したゼミを選択することができます。ゼミで学び、「ゼミ雑誌」の執筆・編集に参加しながら、各自の方向性を見定めていきます。
この、文芸学科のゼミの最大の特色である「ゼミ雑誌」の制作は、実際の本づくりと同じプロセスで各ゼミがひとつの編集部的に機能していくリアルな演習です。どんなブックデザインにするのか？ 作品集的な内容にするのか？ 雑誌的な内容にするのか？……などを、指導教官の指導のもと、学生が自主的に企画編集し、収録作品も執筆していきます。さらには、予算内でどこまで凝った本ができるか、印刷所と交渉するところまで含めた、実践的過程を学ぶことが可能です。

3年次

3年次の文芸研究Ⅲ（ゼミ）は、卒業まで2年連続して同じゼミに参加し、最終成果としての卒業論文・制作までを視野に入れます。純文学、エンターテインメント、ジャーナリズム、文芸評論、エッセイ、詩、短歌、俳句、漫画など、幅広いジャンルに対応する各ゼミの中から、各々の特性に合ったゼミを選択して、創作や研究を深めていきます。



4年次

文芸研究Ⅳでは、3年次と同じ先生、同じメンバーのゼミで、卒業論文・制作に向けての指導が行われます。文芸学科では、ページの上に各々の個性と才能を結実させることが「文芸創作表現」であると捉え、制作として小説のみならず、シナリオ、エッセイ、詩集、短歌・俳句、漫画なども文芸表現の形式として認め、卒業制作として受理しています。これは卒業後の活動のための、実践的な挑戦の成果となることでしょう。



卒業後の進路 Career

出版・印刷（編集、DTP、ライター）、広告（企業宣伝、イベント制作）などの他、
中学・高校教員やパソコンスキルを生かした一般職に就く人もいます。

【過去3年間の実績】

株式会社光潮社／株式会社北海道建設新聞社／株式会社博報堂プロダクツ／株式会社学究社／株式会社報知新聞社／福島県庁／株式会社MAPPA／公益財団法人JKA／日本出版販売株式会社／港北出版印刷株式会社／株式会社くまざわ書店／株式会社講談社／株式会社日経エージェンシー／株式会社幻冬舎コミックス／株式会社メディアドゥホールディングス／アドバンド株式会社／株式会社ゲオホールディングス／ユザワヤ商事株式会社／日本書道美術館／株式会社三洋堂ホールディングス／株式会社朱夏／株式会社エー・ティー・エックス／株式会社クリエイト／高橋庄作酒造店／株式会社朝日広告社／株式会社タツノコプロ／東宝芸能株式会社／株式会社産業編集センター／株式会社Gizumo／株式会社ヒノキヤグループ／株式会社スタジオディーン／株式会社シリウス／株式会社春企画／リックキッズ株式会社／株式会社ローソン／株式会社貴和製作所／株式会社アラジンイデア／株式会社国大セミナー　ほか

総合実習・卒業制作 Performances


1


2


3


4


5


6

1 総合実習 演劇「僕の東京日記」
2 総合実習 洋舞
3 総合実習 演劇「関数ドミノ」
4 卒業制作 演劇「愛の眼鏡は色ガラス」
5 総合実習 日舞「おもてうら」
6 総合実習 演劇「僕の東京日記」

主な施設 Facility


1


2


3


4

1 中ホール
2 実習室
3 小ホール
4 WORKSHOP A

演劇学科HPへ
教員スタッフ・授業紹介ほか

8つのアート1つのハート
NU Art
日本大学藝術学部

日藝
1921－創設100周年－2021
Nihon University College of Art

日本大学藝術学部

演劇学科

THEATRE



• NU ART •

• 2023 •

演劇学科

舞台創造の力
エンゲキで、ホンモノになる

演劇学科は、舞台創造の力でみずからの道を切り拓き、社会のさまざまな分野で活躍できる人材を育成します。舞台芸術の理論と実践を専門的かつ横断的に学ぶ中で培った表現力とコミュニケーション力は多様化が進む社会へのパスポートとなります。舞台作りに熱中する学生たちが日々切磋琢磨しています。



学びのポイント Keyword

POINT 1 4つのコース、10の専攻

2020年度入学者からは、「舞台構想」（劇作、演出、舞台監督、音響、企画制作）、「演技」（演技）、「舞台美術」（美術、照明）、「舞踊」（日舞、洋舞）の4コース10専攻へと学べる分野が増えました。「舞台構想」コースでは、1年次には5専攻のうち興味のある複数分野の基礎を履修し、2年進学時に自分の専攻を決めることができます。4年間をかけて基礎から応用までを徹底的に学び、知識と技術に裏づけられた創造的な表現力を培っていきます。

POINT 2 「理論」と「実践」

「理論」と「実践」の2分野からなるカリキュラムの中で、舞台芸術の歴史や重要な理論を学ぶだけでなく、舞台芸術の専門家になるために必要な実践的な表現方法や技術の学修に進みます。さらに各コース、専攻において、舞台芸術界の最新の潮流に配慮した応用力あふれるカリキュラムを提供しています。

POINT 3 総合実習

総合芸術である舞台芸術は、それぞれのパートが協調することで完成するもの。「総合実習」は、演出、出演、美術、照明、音響、舞台監督、制作など、すべてのパートを学生が担当し、ひとつの舞台を創り上げる授業です。計画から上演にいたるまでのプロセスを通して「見えること」と「見せること」を舞台上でどのように表現していくかを実践的に学び、演劇への理解を深めていきます。

求める入学者像 Admission Policy

舞台芸術作品には、劇作、演出、演技、舞踊、舞台美術、照明、音響、舞台監督、企画制作をはじめとした多くの領域が関わります。その各領域は、主張と協調を重ねながらそれぞれが作品創造を先へ先へと導いていきます。演劇学科では、この舞台創造の根底にある仕組みをいかしながら、理論、歴史、技法、表現をともに学ぶために、豊かなコミュニケーション能力と舞台芸術や創作に対する強い熱意をもつ人材を求めます。『舞台創造を学ぶ中で"化学反応し進化する力"を養い、自分のスキルを成長させ、将来の仕事としたい』『個々の創造力を大切にし、その違いを尊重しあいながら獲得したリーダーシップで社会に活躍の場を見出したい』。そのような人との出会いを待っています。

学びの方針 Curriculum Policy

演劇学科では、様々な分野でプロフェッショナルとして活躍するための「理論」と「実践」のバランスに配慮した授業を中心に、現在活躍中の専門家を講師とした実習授業や4年間の学びの集大成として挑む卒業研究（舞台発表による卒業制作や理論研究成果である卒業論文）を頂点とした教育を行っています。さらに、各コースや専攻での学びを創造的に発展させた「総合実習」や他の芸術領域や芸術教養科目での学びも加え、みずからの学修基盤を学科やコース・専攻におきながらも、幅広い視野に立ち、ジャンルを越えて芸術創造活動に携わる能力を身につけることができるようにカリキュラムを構成しています。各授業では「教わる」のではなく「自ら学び考える」力を養い、発想力や思考力、また基礎を学んだ上での応用力を身につけ、芸術創造に必要な教養やスキルを獲得し、より実践的な力を養えるような授業運営を行なっています。

卒業認定の考え方 Diploma Policy

演劇学科では、各コースや専攻の講座や演習で専門知識や理論を学びながら、同時にそれぞれの実習授業において実践的な学びを修得できたかを測ります。さらに2年次以降の発表を伴う総合実習や上演実習、各領域の演習、また3年次から研究領域に応じて選択するゼミナールを経て、最終学年では卒業見込み認定単位修得者に対し、卒業研究において4年間の学修成果を見極め、卒業時に「芸術学学士号」を授与します。演劇学科では、舞台芸術の理論と実践の2つの学習要素を基盤とし、知識や技能の集積だけではなく、それらを幅広く応用し、発展させることができる能力を養い、さらにその力を用いて、社会で活躍できる実力を修得できたかを最終的な卒業認定の基準としています。



コース紹介 Course

「舞台構想」（2年進学時に、劇作、演出、舞台監督、音響、企画制作専攻へ）、「演技」（演技）、「舞台美術」（美術、照明）、「舞踊」（日舞、洋舞）の4コース10専攻に分かれ、舞台芸術に関する知識や技術を学びます。





舞台構想コース

劇作専攻

"戯曲"は舞台芸術のもっとも基本になるものです。この専攻では、戯曲を「読む」「書く」というトレーニングを通して、劇作家の養成を目指します。

舞台監督専攻

舞台の緞帳の後ろ側の責任者である舞台監督の仕事は実に多岐にわたります。この専攻では、舞台監督演習、舞台技術研究などの講義と実習を通じて、舞台創造における舞台監督の役割について学びます。

企画制作専攻

「社会と演劇をつなぐ」視点からのプロデュースがますます重要になっている今、演劇界でプロデューサーや企画制作者になりたい人のための演劇の基礎から最新のトピックまでを学びます。

演出専攻

演出は、舞台を創造するうえで、常に大切な役割を担っています。この専攻では、演出論、演出演習、演出実習を中心に、その理念や方法、要素や技術を広範囲に習得します。

音響専攻

ストレートプレイの音響から古典演劇の音響、舞踊公演の音響、そして録音まで、多様な音響のスタイルについて音響演習などを中心に学びます。

演技コース

演技専攻

演者に必要な基本的理論、舞台表現方法、そして技術を身につけます。また総合実習や上演実習、演技実習などの各実習を通じて、体験と修練を重ねます。

舞台美術コース

美術専攻

舞台美術の歴史や先人たちの方法論に触れながら、企画や戯曲、演出の意図に寄り添い助ける空間構成と、想いを伝えるための技術、製図技法やプレゼンテーションのテクニック等を実践的に学びます。

照明専攻

舞台照明の構成と表現について、基礎的訓練を通じて学びます。そのための基礎理論、方法論、技術（電気工学、器具操作方法など）を身につけ、総合実習によって実践的に舞台照明デザインを創作していきます。

舞踊コース

日舞専攻

舞踊の理論と歴史、舞台表現にいたる基礎理論を身につけます。それとともに日本舞踊の古典技法の基礎を習練し、創作法も学んで、自分たちで創作した作品を舞台で発表します。

洋舞専攻

モダン・ダンスの理論と歴史、身体表現の専門知識と技術を身につけます。さらにジャンルを越えるさまざまな舞踊と舞台表現手法を研究しながら、作品創作、舞台発表を行います。

卒業後の進路 Career

劇場、興行会社、劇団、プロダクション、美術製作会社、照明会社など舞台関係だけでなく、映像業界や、一般企業に進む人もいます。

【過去3年間の実績】

四季株式会社／東京シティバレエ団／吉本興業株式会社／独立行政法人日本芸術文化振興会／宝塚歌劇団／公益財団法人福武財団／公益財団法人キラリ財団／NBAバレエ団／株式会社オリエンタルランド／株式会社ユー・エス・ジェイ／株式会社WOWOW／株式会社AOI Pro.／株式会社テレビ朝日クリエイト／日本映画放送株式会社／株式会社セガゲームス／株式会社シースリーフィルム／株式会社無名塾／株式会社共立／株式会社パシフィックアートセンター／株式会社シグマコミュニケーションズ／株式会社シミズオクト／株式会社明治座／株式会社宝塚舞台／株式会社川本舞台照明／株式会社ティ・ジョイ／株式会社ディー・エヌ・エー／松竹衣裳株式会社／株式会社東宝コスチューム／株式会社東舞トータルサービス／一般財団法人松本市芸術文化振興事業団／一般財団法人長野県文化振興事業団／特定非営利活動法人アートネットワーク・ジャパン／チャコット株式会社／株式会社マナセプロダクション／株式会社大沢事務所／株式会社レプロエンタテインメント／スペースクラフト・エンタテインメント株式会社／株式会社ホテルオークラ東京／株式会社東急ホテルズ／株式会社東急リゾートサービス／株式会社ホテル小田急／ソフトバンク株式会社／株式会社日能研／NECフィールディング株式会社／株式会社ポーラ／株式会社西松屋チェーン／セントラルスポーツ株式会社／綿半ソリューションズ株式会社／第一生命保険株式会社／全国農業協同組合連合会／東京都教育委員会／株式会社俳優座劇場／株式会社綜合舞台／株式会社総合デザイン／株式会社バンダイナムコアミューズメント／株式会社ライティングカンパニーあかり組／アート・ステージライティング・グループ／株式会社シアターコミュニケーションシステムズ／株式会社ステージファクトリー／株式会社ステージワークURAK／株式会社東日本放送／IVSテレビ制作株式会社／株式会社ザ・ワークス／狭山ケーブルテレビ株式会社／株式会社びびあっぷ／株式会社ジャパンエディターズユニオン／株式会社光文書院／株式会社プロダクション・エース／株式会社PuR／株式会社エクス・アドメディア／株式会社Office Endless／株式会社エーライツ／株式会社ワタナベエンターテインメント／株式会社尾木プロ／株式会社style office／株式会社ソーダコミュニケーションズ／株式会社青二プロダクション／株式会社エイティワンプロデュース／株式会社シェフ／株式会社とうこう・あい／演劇集団風／株式会社SANKO／株式会社はとバス／株式会社ベイクルーズ／株式会社そごう・西武／三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ／藤田観光株式会社／株式会社六曜社／株式会社ヌーヴ・エイ／SABON JAPAN／ヴォルテックス有限会社／株式会社日比谷花壇／株式会社パソナテック／株式会社マーキュリー／株式会社ケーユーホールディングス／株式会社スパイス／株式会社ヒロフ／八王子実践中高（国語非常勤）　ほか

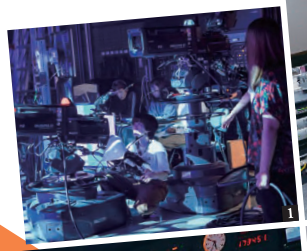
8つのアート1つのハート

NU Art

日本大学藝術学部

百藝
1921–創設100周年–2021
Nihon University College of Art

主な施設 Facility


1


2


3


4


5


6

1 テレビスタジオ1
2 録音スタジオAサブ
3 テレビスタジオ1サブ
4 放送資料室
5 スタジオカメラ
6 ビデオ編集室

地域貢献 Regional Contribution









中学生のためのワークショップ

練馬区教育委員会主催情報教育推進事業として、中学生のための情報番組制作ワークショップを毎年夏に開催。地域社会と連携し、メディア・リテラシーの向上を図っています。

放送学科HPへ
教員スタッフ・授業紹介ほか

日本大学藝術学部













• NU ART •

放送学科

• 2023 •

BROADCASTING

放送学科

身につけるのは BROADCASTING 発信力

テレビ（映像）もあれば、ラジオ（音声）もある。そして今やインターネット（動画配信）もある。報道、教養、娯楽、CMなど情報文化のさまざまなジャンルをカバーし、コンテンツも急激に増えている。放送はとても間口が広く、大きな可能性が広がっている世界です。放送学科では、常に理論と実践を総合的に学びながら、個性豊かな創作能力を育み、社会への「発信力」を身につけます。

学びのポイント Keyword

POINT 1 7つの専門分野

1年次前期に「映像制作演習」「音響制作演習」で基礎的な知識と技術を身につけ、1年次後期からはテレビ制作・ラジオ制作・映像技術・音響技術・CM・脚本・アナウンスの7分野に分かれ、実習を軸に専門分野の学びを段階的に深めていきます。

POINT 2 多彩な専門科目

理論歴史部門、研究部門、表現技術部門の多彩な専門講座や豊富な演習を通して、放送に関わる幅広い教養と専門分野の知識を究め、時代が求める真の発信力を育んでいきます。

POINT 3 卒業研究

3・4年次では、それぞれが設定する研究テーマに基づいてゼミナールに所属し、卒業論文あるいは卒業制作（映像作品・音響作品・脚本・朗読発表・アナウンス）に取り組み、4年間の学びの集大成とします。

実習 Practical training

テレビ制作実習

テレビ制作分野では、実際の番組を想定して、企画立案から作品完成までを実践的に習得します。単に作品制作を行うだけでなく、テレビ番組の社会的な役割や影響力を十分に認識して、受け手を意識した制作姿勢をとることが送り手には不可欠。そのため題材を発掘する目を養うことから始め、作品制作を通して構成力や表現方法など、演出的な考え方を身につけることを軸に制作を進めていきます。またテレビ制作で重要なことはチームワーク。共同で制作することの難しさや尊さを体得しながら、協調性や責任感を身につけ、実社会で通用する人材を育成します。



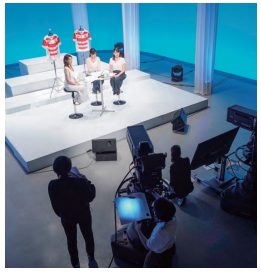
ラジオ制作実習

音楽番組、ドラマ、録音構成など、音響作品を制作するための演出や技術、創造性を身につけることを目的としています。スタジオワークを通して、音響表現の知識・技術を習得し、ドラマをはじめとした音響作品や様々な形式の番組を企画制作します。実践的な学びにより制作者としての創造性を高め、高度な演出力を養います。自分の思い描くイメージを音と言葉でどのように紡ぎ、作品に結実させるかを意識し、制作を積み重ねながら、個々の感性や能力を磨いていきます。



映像技術実習

実際に番組制作を行いながら、テレビ映像の技術を理論と実技の両面から習得します。「映像技術Ⅰ」ではロケーション、ノンリニア編集の基礎技術を、「映像技術Ⅱ」ではテレビスタジオを使った番組制作を通して、カメラワーク、ビデオスイッチング、オーディオミキシング、照明技術を習得。「映像技術Ⅲ」ではさらに、ドラマ撮影技術、中継技術、MA技術など、高度な実践力を養います。また、最新の技術に対応できるよう、芸術的感性と創造力の育成にも力を入れた柔軟なカリキュラムを用意しています。



音響技術実習

テレビ・ラジオなど放送の音声を起点に、広い分野の音響技術を理論と実践を通して学びます。スタジオでの実習を通して放送ミキシングの基礎や音楽録音の基礎技術を習得。デジタルオーディオワークステーションを使った音楽収録と編集・ミックスなど、理論と並行して専門的な技術を段階的に学んでいきます。さらに、テレビ番組制作に必要なMA技術や、常に最新の音響技術も幅広く取り上げて学習。音に関する感性を育み、確かな専門技術力を備え、放送分野に限らず新しい音の世界を切り開いていける人材を育成します。



CM実習

CMクリエイターの育成が目的。ラジオ・テレビCMを企画・制作するための基礎知識を理解した上で、発想法から企画、コピー・コンテ制作、プレゼンテーション、CM制作までの実践的なトレーニングを行っていきます。企画から実践まで、一貫して学ぶことでCM制作のメカニズムを理解するとともに、時代や個性を意識しながら創造力を育成することをめざします。「放送広告論」「広告とマーケティング戦略」「放送作品研究」など、さまざまな面からCMを考える科目を用意し、クリエイターとしての資質を引き出します。



脚本実習

テレビ・ドラマ脚本の執筆に取り組みます。映像ドラマの特質をふまえ脚本の技術の習得をめざすと同時に、作家としての自己のテーマの発見、メッセージの深化をめざします。課題は個人ワークが中心ですが、ディスカッションを通して作品を練り上げたり、受講者が互いの脚本を分析し合ったりする機会を積極的に設けています。オーディオドラマ脚本については、課題に取り組む受講生に対してアドバイスを行います。



アナウンス実習

アナウンス実習では真のコミュニケーション能力取得を学びの目標とします。そのためにまず、呼吸法・発声・発音の基礎を学び、さらに五十音・滑舌・イントネーション・アクセントなどを反復練習することで標準語の音声表現に不可欠な技術を身につけます。ドキュメンタリーのナレーション、CM、朗読など、個別指導で各々の感性を尊重しつつ表現の可能性を探求します。同時に語彙力を高め、世の中の出来事や動きに日々意識を向けさせることで、実社会が求める「TPOに応じて、自分の考えを、自分の言葉で、簡潔に相手に伝える」能力を育成します。



卒業後の進路 Career

テレビ・ラジオ局、番組制作会社、広告代理店などへ多数進出しています。
脚本家、アナウンサー、放送作家、タレントとして活躍する卒業生もいます。

【過去5年間の実績】

株式会社AOI Pro.／株式会社ADKアーツ／株式会社泉放送制作／株式会社IMAGICA Lab.／株式会社WOWOW／株式会社NHKテクノロジーズ／株式会社NST新潟総合テレビ／MT&ヒルトンホテル株式会社／株式会社オフィス・トゥー・ワン／関西テレビ放送株式会社／株式会社共同テレビジョン／クラリオン株式会社／株式会社クリエティブネクサス／株式会社高知放送／株式会社さくらんぼテレビジョン／株式会社山陰放送／サンスター株式会社／四国放送株式会社／四季株式会社／株式会社ジュピターテレコム／松竹株式会社／住友林業株式会社／株式会社創輝／大和ハウス工業株式会社／千葉テレビ放送株式会社／株式会社TBSテレビ／株式会社ティー・ワイ・オー／株式会社テレビ東京／株式会社テレビ東京制作／株式会社テレビマンユニオン／株式会社電通／株式会社電通クリエーティブX／株式会社東急エージェンシー／株式会社東通／株式会社東北新社／株式会社ドキュメンタリー・ジャパン／株式会社日テレアックスオン／株式会社日本経済広告社／日本コロンビア株式会社／日本放送協会／株式会社博報堂プロダクツ／株式会社バンダイナムコアーツ／株式会社フジテレビジョン／株式会社フジ・メディア・テクノロジー／毎日放送株式会社／株式会社三菱東京UFJ銀行／株式会社宮城テレビ放送／ユニオン映画株式会社／吉本興業ホールディングス株式会社／讀賣テレビ放送株式会社　ほか

8つのアート1つのハート

NU Art

日本大学藝術学部

百藝

1921－創設100周年－2021

Nihon University College of Art

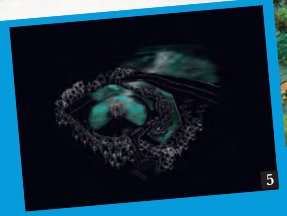
作品紹介（卒業制作） Gallery


1


2


3


4


5


6

1 大森 美菜乃
「cubook」

2 中根 奈津美
「備食レストラン」

3 長谷川 沙恵
「ふれキシブルフォント」

4 冨田 美咲
「高齢者にも配慮したコンビニの新しい食品パッケージの提案」

5 平郡 麻左人
「記憶を見送る墓場」

6 保坂 明沙
「記憶の杜」

学びのシーン Scene


1


2


3


4


5

1 スペースデザイン（銀座ディスプレイ）
2 製図実習
3 プロダクトデザイン実習
4 演習風景
5 デザイン講評会

デザイン学科HPへ
教員スタッフ・授業紹介ほか

日本大学藝術学部

デザイン学科

• NU ART •

• 2023 •





DESIGN

デザイン学科

社会に問題意識とアイデアを提案し秩序や仕組みを可視化する

1年次ではあらゆる分野のデザインの基礎を、実践を通して総合的に学び、幅広い知識と柔軟な発想力と技術力を培います。2年次以降は各自の志望分野に合わせて自主的に授業を組み立てながら高度な専門性の体得を目指します。デザイン学科では豊かな感性と鋭い洞察力を身に付け、デザイン思考と専門的技術で多くの問題に解決策を提案できる力を持つ総合的視野と造形力のあるデザイナーを育成します。

学びのポイント Keyword

POINT 1 芸術と技術の統合

デザインは、我々の社会環境と生活を豊かで快適にする役割を担っています。本学科では「芸術と技術の統合」を掲げたドイツ・造形学校バウハウスの教育システムを継承し、豊かな感性と鋭い洞察力を身に付けた、総合的視野と造形力のある人材を育成。異なる要素を高い次元で融合させる地力とセンスを磨いています。

POINT 2 ステップアッププログラム

1年次では、観察力と表現力を養いデザインの基礎知識と技術を修得。2年次からは自らが選択した分野を核としながら、分野を越えて多角的な視野を養い、多様な問題に対するデザイン思考を深めていきます。3年次は専門性をさらに高めるために、実践的なデザイン業務も体験。ものごとを横断的に捉える見方を身に付け4年次の卒業制作に繋げていきます。

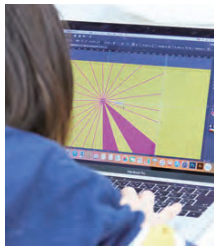
POINT 3 学外コラボレーション

他校、地域、企業とのコラボレーションプロジェクトを通してデザインの新たな可能性を追求し、その成果を広く社会に発信する取り組みを行っています。教室やアトリエを飛び出し、プロのデザイナーや制作者とともにデザインの実践過程を学ぶことで、学習意欲を刺激する貴重な経験を積むことができます。

分野紹介 Field

グラフィックデザイン分野

グラフィックデザインとコミュニケーションデザインは同義で使用されることが多いですが、日藝デザイン学科では、特にグラフィックデザインの要素になり得るものに特化して、グラフィックデザイン分野という位置付けにしています。具体的には色彩学や紙を使用した構成・素材研究、パッケージデザイン、タイプフェイス、イラストレーション、コンピュータグラフィックスなど、コミュニケーションデザインを成り立たせる上で欠かせない要素について、演習や座学を通して研究し、造形美を追求していきます。日藝100年の歴史の中で培ってきた造形芸術のカリキュラムとそのノウハウを活かし、グラフィックデザイナー、グラフィックアーティスト、イラストレーターとしてのスキルを高めることを目的とした授業構成になっています。



コミュニケーションデザイン分野

コミュニケーションデザインとは、情報を分かりやすく可視化して第三者に伝えることを目的としたデザインです。近年では様々なメディアが台頭してきており、ますますコミュニーションデザインが重要になっていくことでしょう。日藝デザイン学科では、広告、プロモーション、エディトリアル、ブランディング、ビジュアル・アイデンティティ、ウェブデザイン、映像表現、インタラクションデザインなどのデザイン領域をコミュニケーションデザイン分野と位置付けています。情報や目的によって様々なメディアを取捨選択し、グラフィックデザイン分野のスキルを持って、より高い次元で社会とコミットしていきます。従来のメディアの考え方に捉われず、情報を分かりやすく伝える方法を考え、形にしていくことに重点を置いたカリキュラム構成となっています。
※グラフィックデザインとコミュニケーションデザインは密接に関係している分野のため両方の授業を取れるカリキュラムとなっています。



プロダクトデザイン分野

プロダクトデザイン（製品デザイン）では、自動車や家電をはじめ、情報通信、オフィス、医療福祉、雑貨、文具、家具、玩具など、身の周りの全ての製品がその対象になります。また現在では、プロダクトデザインは製品を形づくるだけではなく、情報機器のインターフェースをはじめ、生活をとりまく環境や社会システムにまで広がりを見せています。「多元的にモノゴトを見て考える思考力」「生活の中に潜む諸問題を発見する観察眼」を養い、さらにはその解決策を魅力的に提案・実践できる人材を育成します。
そのためには思考力や表現力を磨くとともに、それらを支える様々な知識を備えられるように、多面的なカリキュラムを用意しています。
快適で豊かな暮らしを実現するためにはプロダクトデザイナーはどうあるべきか、グローバルな時代の変化に対応するため、教育内容も日々柔軟に更新しています。



スペース・アーキテクチュア分野

空間や建築を「内側」から考え、人間の生活の基盤となる住空間を中心に、家具から建築へ、建築から都市へと、身近な小さなものから大きなものへと思考し、環境全てを創造していきます。個人を取り巻く小さな空間を重視し、空間を構成する素材を通して自然と呼応する視点をさまざまなデザインの場で貫き、「人間」へのこだわりを持ち続けることを基本姿勢として、より良い生活空間をつくるために、建築をとりまく環境全般にトータルな視野を持った建築家やデザイナーの養成を目的としています。この分野の所定の理論科目・演習科目を習得することで木造建築士・二級建築士・一級建築士の受験資格が認定されます。また、校外授業として3年次に「古建築研修」として京都に赴き古建築や町並を見てまわります。先人の遺構を実体験し、そこから多くを学びます。
4年次には、3年間の学習を通して最も関心の持てるテーマを自ら設定し、ゼミ担当教員のもとで研究を進め、卒業制作の指導を受けます。卒業制作は4年間の集大成であり、社会への出発点ともなるものです。制作の対象は、家具的なものから地域計画や新たな空間の提案など様々ですが、いずれも人とモノ、人と空間との関係性を追求しています。



4年間の流れ Process

ベーシックデザイン
- グラフィックデザイン分野
- コミュニケーションデザイン分野
- プロダクトデザイン分野
- スペース・アーキテクチュア分野

→ ゼミナール → 卒業制作

1年次

全てのデザインの基本は人と人との繋がりであり、社会とコミットすることを原点と捉え、デザインの基本技術の修得と併せて当学科が掲げる「グラフィック」「コミュニケーション」「プロダクト」「スペース・アーキテクチュア」分野の基礎を学び、それらがどのように関わっているかを理解・認識し、自らの適性を探ります。

カウンセリング
1年次終了時点で全専任教員が3人1組で一人一人と進路についてカウンセリングを行います。1年次に制作した作品のポートフォリオ及び学生の意志や意欲を基に面談を行い、本人に適したデザイン分野を教員が一緒になって探り、その方向性をアドバイスします。

2年次

自分が選択した分野を核にしたオリジナルのカリキュラムに従い、デザインの「理論」「歴史」「演習」「実習」などを通して、そのデザイン手法・知識を深めます。これにより、分野を超えて多角的な視野を養いつつ、デザインの多様性を学ぶことができます。

3年次

選択分野の専門性をさらに深めるために「インターンシップ」、「総合演習」や「産学連携プロジェクト」などが用意されています。特に社会におけるデザイン実務を学び、物事を横断的に捉える見方と考え方を身につけていきます。

4年次

社会や生活のさまざまな問題や関心から独自のテーマを設定し、企画・発想・制作・提案といったプロセスを通じて、修得したデザイン手法を駆使し、4年間の集大成として卒業制作に一人一人が取り組みます。

卒業後の進路 Career

広告代理店、デザイン事務所、広告制作会社、家電・自動車・文具などのメーカー、建築・設計事務所、建設会社などで、幅広く活躍しています。

【過去3年間の実績】
株式会社電通／株式会社博報堂／株式会社読広クリエイティブスタジオ／GMOメディア株式会社／カシオ計算機株式会社／株式会社イトーキ／株式会社オカムラ／コトブキシーティング株式会社／コナミホールディングス株式会社／日産自動車株式会社／株式会社SUBARU／本田技工業株式会社／スズキ株式会社／株式会社タニタ／株式会社ソニーミュージックエンターテイメント／エレコム株式会社／株式会社アマナ／株式会社ZOZOテクノロジーズ／ミドリ安全株式会社／日本製紙／ライオン事務器／富士通ゼネラル／株式会社エバニュー／株式会社ケイテック（川崎重工）／レック株式会社／株式会社カワダ／株式会社タカラトミー／大東建託株式会社／パナホーム株式会社／株式会社スマイルズ／株式会社電通テック　ほか

日本大学藝術学部

芸術教養課程

・NU ART・

・2023・











ART START

ひろがるアート。創造のスタート。

芸術教養課程

芸術教養課程では、芸術創造教育及び芸術総合教育の更なる充実を目指し各科目が設置されています。芸術・文化の基礎知識への理解、人間・社会・自然への理解、異文化への理解、健康への理解などを深めていきます。1年次の芸術に関する基礎理論から、上級年次の大学院を視野に入れた演習まで、多様な科目が設置されています。









1 芸術教養科目

芸術・文化の幅広い教養、芸術の総合的視野を身につけるための科目。知の多様性を満たし、基礎学力を強化します。「芸術総合講座」も、この科目群に含まれます。

教員紹介

櫻井 歓[教授] Kan SAKURAI
[主な担当科目]アートと教育

山本 守和[教授] Morikazu YAMAMOTO
[主な担当科目]情報Ⅰ・Ⅱ

加藤 亮介[准教授] Ryosuke KATO
[主な担当科目]メディア・リテラシーⅠ・Ⅱ／メディア芸術論

髙久 暁[教授] Satoru TAKAKU
[主な担当科目]美学Ⅰ・Ⅱ／芸術学Ⅰ・Ⅱ／表演芸術論

吉野 大輔[教授] Daisuke YOSHINO
[主な担当科目]人間の心理Ⅰ・Ⅱ／芸術と心理Ⅰ

小堀 裕子[助教] Yuko KOBORI
[主な担当科目]日本国憲法／法と政治

ピックアップ授業



メディア・リテラシー

芸術や創作の一つの行方である「メディア」について学び、メディア創造のための素地を養います。メディア芸術の読み解きから、最新のメディア産業の構造に至るまで、幅広い論点を扱います。もちろん、授業内容は毎年アップデートされていきます。



芸術と心理

「芸術療法」や「イメージと象徴」等をテーマに取り上げ、芸術と心理学の関係性を学びます。古代の神話・昔話から現代のポップカルチャーまで、さまざまな作品に触れながら、人間の成長や再生の過程における表現の重要性について考察します。

2 外国語科目

日芸では多様な外国語を学べます。1年次では1つの語学を選択し、文法・会話を中心に基礎知識を学習します。2年次では1年次と同じ語学を磨き続けることも、新たな語学にチャレンジすることもできます。



英語gクラスでの会話授業

教員紹介

久保 陽子[教授] Yoko KUBO
[主な担当科目]英語／応用英語／芸術理論演習

ジュリアン マニング[教授] Julian MANNING
[主な担当科目]英語／応用英語

齋藤 山人[専任講師] Yamato SAITO
[主な担当科目]フランス語／芸術特殊研究

松浦 恵美[専任講師] Megumi MATSUURA
[主な担当科目]英語／応用英語

山崎 亮介[助教] Ryosuke YAMAZAKI
[主な担当科目]英語／自主創造の基礎

3 保健体育科目

ヒトの身体や健康、運動に関する知識を学ぶ講義科目と、実際に身体を動かして行う実技科目を開講。実技科目では、バドミントンや卓球、トレーニング系種目や、集中で行うゴルフ、スキー、スケートなどのシーズンスポーツも開講しています。



コンディショニング・トレーニングの様子

教員紹介

小沢 徹[教授] Toru OZAWA
[主な担当科目]健康・スポーツ科学／コンディショニング・トレーニング／芸術と身体

加藤 弘一[教授] Hirokazu KATO
[主な担当科目]健康・スポーツ科学／インドア・ゴルフ／シェイプアップ・トレーニング

畑瀬 聡[専任講師] Satoshi HATASE
[主な担当科目]健康・スポーツ科学／ソフト・バレーボール／バドミントン

芸術総合講座

アート・マネジメント

芸術の「発信者」と「受信者」をつなぐ企画や運営など「アート・マネジメント（芸術運営）」の領域の仕事とは何かを学びます。美術・デザイン・写真などの展示系と演劇・オペラ・舞踊・音楽領域の上演系の2つのテーマで開講しています。様々な分野の第一線で活躍する方々を招き、現場に即したヴィヴィッドな講義を展開します。

広告企画実務

芸術総合学部の特徴を生かし、多メディアにわたる広告表現教育と、企画力のある人材育成を目的にした講座。広告コミュニケーションの「いま」を理解した上で、広告の発想・企画から実際までを総合的・多角的に学びます。専任教員・非常勤講師に加え、広告の企画や制作に関連する様々な現場で活躍する第一線の方々をリレー形式で招き、ケース・スタディーを通して充実した授業を展開します。

映像ビジネス

映画業界を中心に、現代の映像ビジネスの全体像について学びます。邦画製作や外国映画の買い付け、宣伝、映画館興行、DVD、テレビ放映、映画祭などの分野で、メジャーからアート系まで様々な映像ビジネスの第一線で活躍する方々を招き、それぞれの現状と将来像について事例をもとにした講義をします。

著作権と知的財産権

出版業界・メディア業界で必須の知識である著作権や作品の権利処理に関する内容を学びます。第一線で活躍するメディアビジネスの専門家や作家、マンガ家、エンターテインメントに携わる弁護士、映像・音楽・デザイン・ネットなどの実務担当者を招き、事例をもとにした実践的講義を行います。

【東北新社冠講座】映像コンテンツプロデュース論

東北新社グループによる、プロデューサーを軸とした映像コンテンツの制作システムを実践的に学ぶ、企業体験の講座です。CM・映画・テレビ番組・WEBなどの現職プロデューサーが講師となり、自身が手掛けた作品などを実例にとりあげながらプロデュース業務を解説。特にCMプロダクションマネージメント実習講義では、プロデューサーにとって最も大切な仕事である「予算設定」「スケジューリング」「スタッフィング」などを学生自らが体験することにより、プロデュース業務を深く理解していく内容になります。

連携プロジェクト実務

本学部のユニークな特色を活かした課題解決を実行する起業家精神（日藝型アントレプレナーシップ）を養うために、外部の企業・行政・団体との連携プロジェクトを通して、クリエイターとして社会にどう貢献できるかを体験し、その過程における課題や実行後の効果などを実践を通して修得します。

奨学金制度

奨学金は、学業生活を充実させるための経済的支援です。向学心があるにもかかわらず経済的な理由により修学が困難な場合や学業成績優秀者に奨学金を給付・貸与しています。日本大学の奨学金制度や芸術学部独自の奨学金制度、また、学外の日本学生支援機構や地方公共団体・民間育英団体の奨学金制度も活用することができます。なお、高等教育の修学支援制度に採用となった場合、各奨学金制度との併給ができない可能性があります。

日本大学の奨学金制度

■日本大学創立130周年記念奨学金（第2種）

成績・人物ともに優良な資質を持っているにもかかわらず、経済的理由により学費等の支弁が困難である在学生（外国人留学生を除く）に30万円を給付します。

■ロバート・F・ケネディ奨学金（大学院生対象）

アメリカ合衆国元司法長官故ロバート・F・ケネディ氏の寄付によるもので、大学院に在学する学生で学業及び人物ともに優秀で、健康な者に年額20万円を給付します。

■古田奨学金（大学院生対象）

本大学の興隆発展に寄与された故古田重二良先生の功績を顕彰して、大学院に在学する学生で学業及び人物ともに優秀で、健康な者に年額20万円を給付します。

芸術学部独自の奨学金

■芸術学部奨学金

本学部が学生の有為な人材育成を目的に設置した奨学金です。

奨学金の種類	対象	給付額	人数
第1種	修学の意志があり、かつ優良な資質を持ちながらも経済的な事情で学業に専念できない学部生（外国人留学生を除く）	30万円を限度	30名程度
第2種	芸術・文化に関わる創作活動において、専攻分野に関連した国際的又は全国的規模のコンクール・発表等で高い評価を受けるなど、優秀な成績をあげたと認められる学部・大学院生	50万円を限度	若干名
第3種	学費支弁者が災害に罹災し、甚大な被害を受けた、もしくは不慮の理由で家計が急変し学費等の支弁が困難である学部・大学院生（外国人留学生を除く）	授業料を限度	若干名
第4種	本部又は学部が設ける留学制度、海外研修制度等により海外に渡航する学部・大学院生（外国人留学生を除く）	20万円を限度	若干名

（人数は2022年度採用予定数）

外国人留学生に対する奨学金

■日本大学創立100周年記念外国人留学生奨学金

私費外国人留学生を対象とした制度で、学業成績・人物が優秀で、かつ健康であり、特待生その他の本学の奨学金を受けていない学生に授業料相当額の半額を給付します。

■日本大学私費外国人留学生授業料減免制度

私費外国人留学生を対象として、授業料の一部（20%）減額を行い、その経済的負担を軽減することによって、学業が継続され、留学の実を上げることを目的とする制度です。

特待生制度

本学では学業成績優秀、品行方正な学生を学部で選考し、特待生としています。特待生には、次の奨学金を給付しています。選考された学生には、6月頃郵送及び掲示にて通知します。（2年生以上対象・2021年度現在）①甲種（授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円） ②乙種（授業料1年分相当額の半額）

地方公共団体・民間育英団体奨学金

募集の時期は4~5月が最も多く、募集があったものについては随時掲示板などで告知します。ただし、地方公共団体奨学金は大学に奨学生募集がないものもあるので、出身地の教育委員会などに問い合わせてください。

日本学生支援機構奨学金（貸与）

勉学に励む意欲があり、またそれにふさわしい能力を持った学生・生徒が経済的理由により修学をあきらめることのないよう支援することを目的として国が実施する制度です。別に定める規定によって、特に、学業、人物ともに優秀であって、著しく学資の支弁が困難であると認定された者に貸与されます。貸与期間は、本学部の標準修業年限とします。詳しくは、ホームページをご確認ください。
日本学生支援機構奨学金ホームページ　https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html

高等教育修学支援制度

経済的な理由で学び続けることをあきらめないよう、2020年4月から授業料等の減免（授業料と入学金の減免）と給付型奨学金（原則返還が不要な奨学金）により、意欲のある学生のみなさんの「学び」を支える制度です。大学等に在学中の学生も、条件を満たせば支援を受けられます。世帯所得等によって算出した結果に応じて支援区分が決定します。支援区分は3段階で区分に応じて、支援の金額が異なります。

●第Ⅰ区分（住民税非課税世帯）

①授業料等の減免	上限約70万円／年	
②給付型奨学金	自宅通学	38,300円／月
	自宅外通学	75,800円／月

●第Ⅱ区分

①授業料等の減免	上限約47万円／年	
②給付型奨学金	自宅通学	25,600円／月
	自宅外通学	50,600円／月

●第Ⅲ区分

①授業料等の減免	上限約23万円／年	
②給付型奨学金	自宅通学	12,800円／月
	自宅外通学	25,300円／月

詳しくは、ホームページをご確認ください。
高等教育の修学支援制度ホームページ　https://www.mext.go.jp/kyufu/student/daigaku.html

資格取得

資格取得について詳しくはWEBをご覧ください。
https:// www.art.nihon-u.ac.jp/campuslife/registration/licence/

教職課程

教員免許状を取得するための課程です。基礎必修科目、教職に関する科目、教科専門科目があり、所定の単位数を取得することにより免許状を授与されます。（下表参照）

学科	美術	音楽	文芸	デザイン
中学校一種	美術	音楽	国語*	美術
高等学校一種	美術・工芸	音楽	国語*	美術・工芸

※「中学校一種 国語」「高等学校一種 国語」免許状については、文芸学科の教職課程科目が他学科公開科目に指定されているため、全学科で取得可能です。

一級建築士、二級建築士及び木造建築士受験資格

デザイン学科在籍者は、所定の建築士試験指定科目を修得することにより、卒業時に一級（ただし、卒業後2年以上の実務経験が必要）及び二級・木造（実務経験0年）建築士試験の受験資格を得ることができます。

学芸員課程

芸術学部各学科の学生は所定の単位数を取得することにより学芸員の資格を取得することが可能です。

司書課程・司書教諭課程

芸術学部各学科の学生は所定の単位数を取得することにより司書及び司書教諭の資格取得が可能です。司書教諭の資格を有効にするには、併せて教員免許の取得が必要となります。

図書館　図書館について詳しくはWEBをご覧ください。
https:// www.art.nihon-u.ac.jp/facility/library/